

昭和9年(1934)設立

財務省許可 社団法人 昭和経済会

昭和経済

Manager Association of Japan

第62巻3号
23年 5・6月

国会図書館永久保存

課題山積・日本の将来
一般学生諸君に伝えたいこと
大学の経営改革の成果と意味
「平均概念」
「一層の緩和とデフレ打破」
「復興への政治的力結集を」
「電源別コスト検証が前提」

渡辺 喜美
佐々木 和秀
安田 樹一
宮田 宏啓
若田 文弘
植田 和弘

昭和経済 23-5・6月号

昭和25年6月24日 第3種郵便物認可(毎月1回1日発行)
昭和25年10月19日 日本国有鉄道特別扱承認第1797号

Showa Economic Study Association
企業家・経営者団体

財務省 本省許可

社団法人 **昭和経済会**

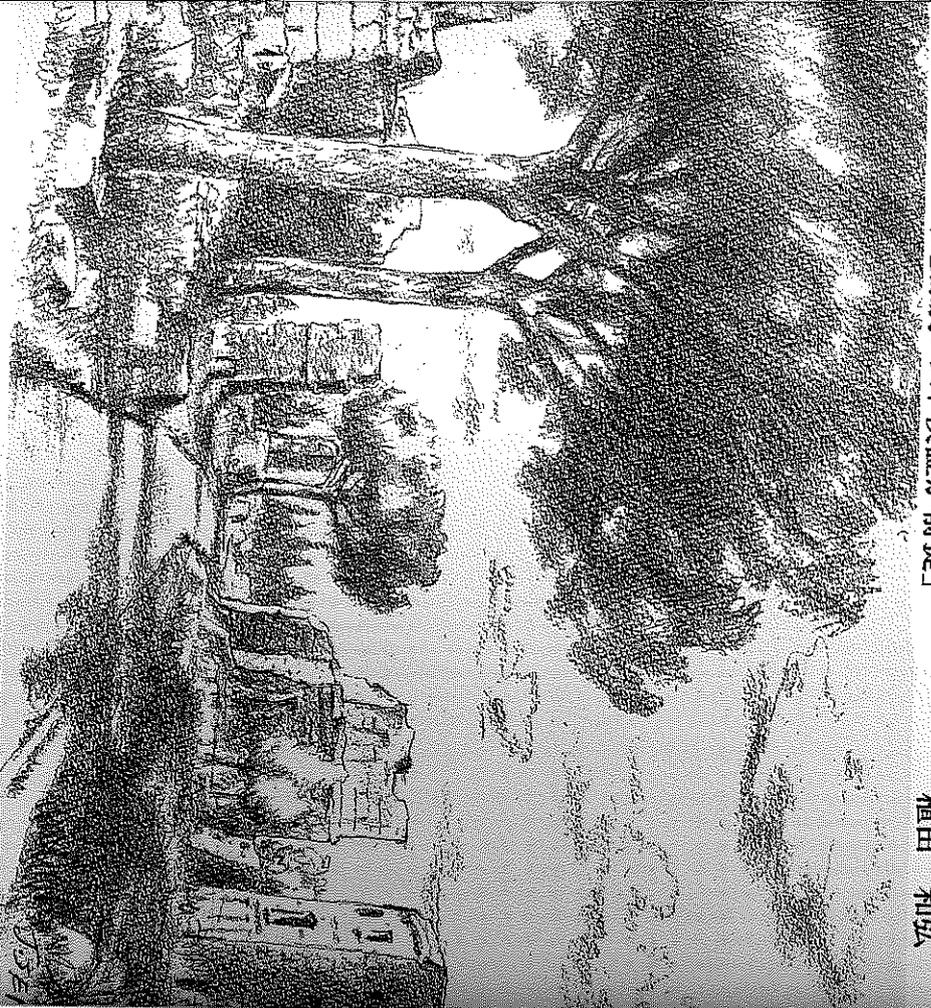
事務局 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-11-2

TEL 6820-6000・3271-8846 FAX 3271-3104

<http://www.showa-ec.or.jp/>

e-mail info@showa-ec.or.jp

ローマ・旧アツピア街



人間社会は今日まで幾多の歴史的試練を経て、その存続を得てきました。

その間、私達は経済社会の生活の中で、自然科学への洞察は驚きを以って、文化科学への触発は閃きを以って発展に寄与してきました。科学技術の進歩と開発は人間の英知をもってこれに臨み、文化科学の啓発と振興は人間の情操をもつて、限りなく高めてゆかねばなりません。

歴史のいかなる発展過程においても、常に人間の尊厳をうたいあげ、自由と平和が約束される豊かな人間社会の存続が、私達の目的であり実践であります。

昭和経済会は、伝統を重んじ、時代の変化に機敏に対処しつつ、この普遍的な理念のもとに、日常の企業経営と経済活動を通して、さらに公私経済の発展と推進に役立つ啓発、協力、親睦の団体として、その使命を果たしてまいります。

社団法人 昭和経済会



キリストもほとけもなべて現し世の人を
救ひていやしたまへり 佐々木誠吾

三郎 震災の奥の細道春田打

悟風 子通路もおつ基金の災害地

剣太郎 涅槃西風津波攫ひし町の跡

どんぐり 街呑みし大津波跡田螺這ふ

ドズル 街並みは復興一途や花らんまん

富貴男 大なかにゆるる大地や花疲れ

緑子 新緑や汽笛一声うねり去り

長谷川 菜の花に遊ぶ童はどいやら

山人 無気味なり原発基地の寒の明け

主な活動

- ① 会員相互の啓発、親睦、協力の定期講演会
- ② 内外の経済、政治、文化、學術の定期講演会
- ③ 政府、関係省庁への要望と提言
- ④ 専門委員の法律、税務、経営相談
- ⑤ 海外派遣留学生奨学基金の活用
- ⑥ 月刊「昭和経済」の発行

創立と趣旨

社団法人 昭和経済会の案内

会員制の企業家、経営者団体で我が国の「公私経済の発展助長と会員相互の連絡並びに親睦を図る」を目的で、一九三四年(昭和九年)五月十五日創立され昭和十四年大蔵省から社団法人の許可を受けました。

義援金募集の応募に感謝

私は福島原発事故の発生以来、一貫して一市民の立場から憂国の情を以て、焦燥、慨嘆、慟哭の極みを拙い一首を以て心中を吐露してきました。数多く詠んできておりますが全て直感的、直情的であり、時に冷静を欠く場面のあることを感じております。天災に続くおびただしい人災で、この国のため、この国の民のために今までに積み上げてきた我々国民の努力のあととは微塵もなく、焦土と瓦礫のあとが敗戦当時と何ら変わりなく暗澹たる気持ちであります。負の遺産の余りにも膨大なさまに、一時は茫然自失、国家滅亡に立つ運命と、敗者の捕囚の身を嘆いていました。その余震は未だに続いておりますが、被災者の悲しみと絶望の淵から這い上がっていく果敢な姿に自ら奮い起こす気持ちで居る昨今であります。

こうした時、当、昭和経済会は会の内外で若者たちが懸命になつて窮状を支え、できる限りの支援隊を現地に送つたりしておりますが、二階から目撃の感なきにもあらずですが、しかしこうした感慨が大きな輪となつて世の中に及んでいくことを期待し、懸命な姿勢で臨んでおります。

那須塩原市の観光地、那須高原に取得した宅地三三〇〇平米と、館三棟延べ五二九平米の施設を、被災地からの避難民に供すべく、市役所の担当課に申し入れました。昨年春、当会のラミーの一つとして「都会と田舎暮らし」に理解を得、地方の活性化を目指して会員が購入したものであります。

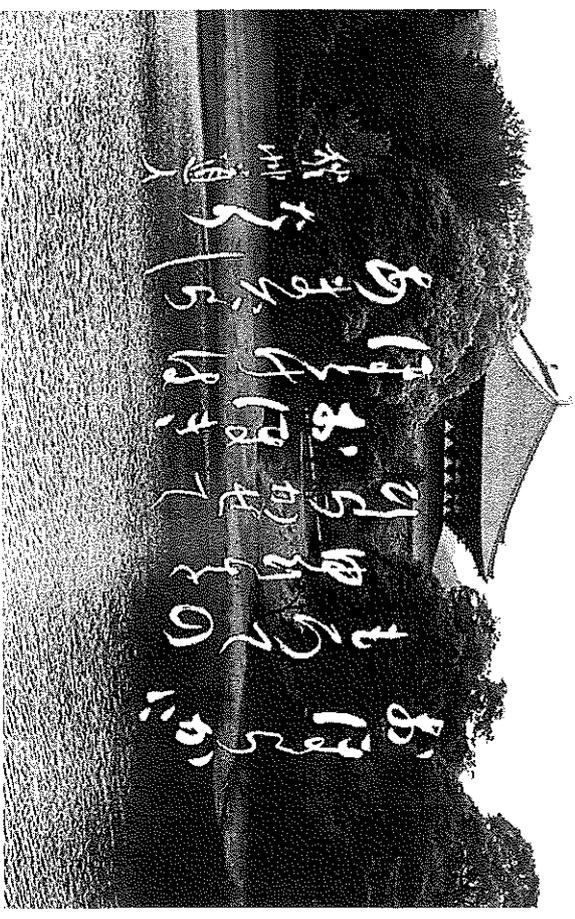
又、会員の各位にお願ひした尊い義援金の募集も、谷口社長、鈴木社長、森社長ら会員各位の暖かいご支援を以て被災地のみなさんにお届けする準備が出来、感謝のきわみであります。これを現地に届けたいと思つて、その具体的方

策の検討を幹事諸兄に依頼しているところであります。

各位から賜りましたご支援に対し、心から御礼申し上げる次第であります。

尚、私の拙い一首を、犠牲者の「鎮魂のうた」として此処に謹んでお捧げする所存であります。一首は、時に長編小説、私小説を凌ぐ内容を持つ時があります。私の拙い歌から、一首を取り出してその状況なり、意味なり、内容に就いて少しでもお汲みとり頂ければ本懐であります。

理事長 佐々木誠吾
役員 一同



目次

巻頭言 ……………佐々木誠吾…(2)

課題山積・日本の将来 ……………渡辺 喜美…(34)

大学の経営改革の成果と一般学生諸君に伝えたいこと…佐々木和男…(46)

〔時局論壇〕
「平均概念 意味なきす」 ……高安 秀樹…(56)

〔時局論壇〕
「二層の緩和でデフレ打破」 浜田 宏一…(62)

〔時局論壇〕
「復興へ政治の力結集を」 ……若宮 啓文…(68)

〔時局論壇〕
「電源別コスト検証が前提」 植田 和弘…(73)

人生の基礎が揺るがされるとき……………神田 英輔…(79)

わが回想記 ……………堀江 忠男…(96)

蘭子の心情 ……………岩本ラッコ…(98)

物事、難しいことはない ……井浦 康之…(100)

昭経俳壇 ……………遠藤 蘆穂…(106)

後記随想 ……………佐々木誠吾…(110)

表紙絵のことば ……………関根 常雄…(114)

特別賛助会員 ……………(117)

巻頭言 佐々木誠吾

続・原子力発電の安全性について

日本経済新聞の朝刊、大機小機のコラムは有能な識者が論評すること多く、関心のない内容はともかく多くの示唆に富むもので許すかぎり読んで勉学に供しています。

五月十一日付の同欄で、原子力政策再出発の前提と題して論評が載っていました。

原子力発電政策は、福島原発基地の事故以来、その将来性について多方面から多くの意見がなされています。再出発の前提と云うからには原子力エネルギーの平和利用が必要だという前提に立っているのです。その安全性を確保することに議論の重点が置かれていることは自明なので、賛否を問うものでないと考えています。

筆者は冒頭に「原子力は危険だ」と云うのが本筋であらう。その危険は、福島原発基地の事故以来、その将来性について多方面から多くの意見がなされています。再出発の前提と云うからには原子力エネルギーの平和利用が必要だという前提に立っているのです。その安全性を確保することに議論の重点が置かれていることは自明なので、賛否を問うものでないと考えています。

明日にも危険は危険を孕むものであつて、安全ではないと云うことです。世界的に見ても原発についてはドイツのよう

な国もあれば、フランスのような国もあつて、国益を前面に事情は複雑な様相です。日本だけの問題ではないだけに、この件に関しては残念ながら目下のところは制御不能といわざるを得ません。そのうち臨界に達したでも困ります。

古くは原爆の地獄の惨状を受け、スマイリー島、チェルノブイリ事故など、人類は原発被害の洗礼を受けても懲りないものであり、そうした積年の社会スキームであることからして、この問題、全知全能の神をもって代行できるものな別ですが、これを確信する人がひとりでもいたら、会って確かめてみたいものであります。六月六日

来の姿だと云うことが判つた」という東海村村長のコメントを引用し、否定はしないものの、政策当局や電力会社の意見(特に臨界事故)を取り上げ、「原発施設」ではなく燃料加工という裾野で起こつた事故であり、原発の信頼性とは無関係だとしています。

結論として筆者は「原子力は安全。そのことを国民に正確に理解してもらつた努力をしなれば」という認識を、「原子力は危険、どう克服するか」に大転換をする必要がある、として

いることに問題があると私は思っています。基本的に原子力は危険であり、人為を以てしては御したいものであります。その可能性の占める割合が問題なのかも知れませんが、仮りに九十九パーセント大丈夫だが、一パーセントの危険の可能性があるとすれば、完全に克服できるものとは云えないが故に、危険、死を

きるものと覚悟があるかという結論になります。もつと豊かな生活を、もつと豊かな社会と云う人

東北関東の大災害によつて生産拠点を破壊された日本企業が多くが操業不能に陥つて、日本経済が今大きな損害を被つております。これは直ちに世界の経済に大きな打撃となつて、世界の各地にある生産拠点を直撃しています。

グローバル化が進んで世界の経済と産業の仕組みは、複雑巨大なフレームワークとなつて有機的に稼動しています。そして世界的な規模で、産業の分業化が進んでいます。その上に立つてインターネット・フアクトリー、即ち世界工場が操業しています。

従つて、例えば分業の一役を荷う日本の部品工場の生産が停止されると、その部品が一つ供給されないことを以て、全体を組み立てることができません。関連する全世界の工場が、そのために活動できなくなつてしまいます。中間生産財を含め、最終工程までが作動しなくなつて

組み立てることが出来ず、完成品が市場に供給されなくなつて、需要に対応することができません。産業と経済活動がその間停止されてしまふ。日本に起きた災害によつてこうした事態が今世界的に起きてしまつて、一部の産業界に深刻な事態をもたらしています。商品が円滑に消費者の手に渡らない事態が起きています。従つてお金の流れがとまつてしまふ深刻な現象が起きております。

身体は血液の流れが止まつてしまふ、心肺停止となつて、生身の身体では深刻な生命の危機という事態の発生であります。これは死の宣告にも等しいことです。加えて厄介な問題が立ちふさがつてきております。原発の損壊から放射線物質が飛散して、周辺に恐怖を撒き散らしていることです。放射性物質については、国の威信にかけてあらゆる困難を乗り切つて、これを食い止めなければなりません。目に見えぬ死の粒子が空気中に飛び散つて、工場の再建を邪魔とは微塵もなく、焦土と瓦礫のあとには敗戦当時と何ら変わりなく暗澹たる気持ちであります。負の遺産の余りにも膨大なさまに、一時は茫然自失、国家滅亡に立つ運命と、敗者の捕囚の身を嘆いていました。その余震は未だに続いておりますが、被災者の悲しみと絶望の淵から這い上がつていく果敢な姿に自らを奮い起こす気持ちで居る昨今であります。

こうした時、当、昭和経済会はこの内外で若者たちが懸命になつて窮状を支え、できる限りの支援隊を現地に送つたりしておりますが、二階から目録の感なきにもあらずですが、しかしこうした感慨が大きな輪となつて世の中に及んでいくことを期待し、懸命な姿勢で臨んでおります。那須塩原市の観光地、那須高原に取得した宅地二五〇平米と、館三棟延べ五二九平米の施設を、被災地からの避難民に供すべく、市役所の担当課に申し入れました。昨年春、当会のテーマの一つとして「都会と田舎暮らし」

している一因でもあります。日本の工場稼働の停止は、世界の工場の停止を意味して全産業に及んできています。インフラの整備を第一に、一刻も早く被災地の復興に立ち上がつて、住民の生活拠点を新たな視点にたつて再建を図りそのための復興資金の調達を目指して、管内閣は迅速に補正予算の審議と成立を目指すべきであります。

義援金募集に感謝

私は福島原発事故の発生以来、一貫して市民の立場から愛国の情を以て、焦燥、慨嘆、働哭の極みを拙い一首を以て心中を吐露してきました。数多く詠んできておりますが全て直感的、直情的であり、時に冷静を欠く場面のあることを感じております。天災に続くおびただしい人災で、この国のため、この国民のために今までに積み上げてきた我々国民の努力のあとを、各位の暖かい支援を以て、これを現地に届けたいと思つて、その具体的方策の検討を幹事諸兄に依頼しているところであります。各位のご支援に対し心から御礼申し上げる次第であります。

尚、私の拙い一首を、犠牲者の「鎮魂のうた」として此処に謹んでお捧げする所存であります。一首は、時に長編小説、私小説を凌ぐ内容を持つ時があります。私の拙い歌から、一首を取り出してその状況なり、意味なり、内容に就いて少しでもお汲みとり頂ければ本懐であります。

おほなほと巨大津波に放射線物質におびゆ被災地の民

目に見えぬ死の矢おもてに立つ民の放射性
粒子におびゆ日に夜に

おほなる津波の山のおそひきて原発基地
を壊しゆくなり

まほろまの港の街を襲ひくる黒き海かさ増
してけはしく

襲ひくる巨大津波にさらはれし屋形を見つ
め泣きすれけり

気仙沼もまたたく泥の海と化しなると津波
のあとの廢墟は

丘に立ち眺むる海の果てに湧く黒き巨大の
壁のせまり来

リアス式海の岸べに美しき港の街の今は陸
壘に

いとほしき汝がふるさとの崩れさりがれき
のあとに立つはむなしき

天地のなにゆゑかくも荒れすさぶ神に仕ふ
る人を襲ひて

地を襲ひ濁流となり人々を呑み込みて去る
荒れはつる海の岸べに累々のしかばねあり

て救ひあたはじ
死の灰てふどギニ環礁の核実験半世紀を経

て今の如美に
原爆の洗礼を受くこの国に今も原発の放射

能の降る
義援金募る駅頭の学生にかうべを下げて申

しいでけり
チェルソンの身をもくわしく伝えきて主と

共にある日を喜び
非情なる海をながめてなにゆゑと牙をむき

出し襲ふ思ひて
果然と海をながむるみなしこのうづるまな

この癒しがたきに
わが神よ災ひにあるくにたみに手をさし

べて救ひたまへや
世の中のすざぶるなかに幸ひの道を歩みつ

主を喜ぶと
荒れ狂ふ世に幸わいの道をゆく主ととも

非情なる海

あめつちを犯し続けて死を迫る見えぬ物質
は人が作れり

縄文の御代を生き抜く賢人のまなこするど
く今日を見つめり

かへりみず神の掟を犯す者いま鉄槌のくだ
る時とも

主が創る地上の秩序をみだし汝が慾望の先
を見るが思ひに

まほろまの山河も時におほなると津波に破
壊さるこのくに

津波きてみなとの船も家もみな微塵となり
て海にながさる

岩礁にあたる津波は宙に舞ひやぐらとなり
て崩れおちけり

おそるべし波の高さは百尺と迫りて街を奪
い去るなり

住民のあつ大麥だのひと声にまたたくまに
も街は失せけり

在り今をよるこぼ

死に至る放射能をば世に流す鬼にもひとし
輩おりしは

世の中の乱れに乗りてあれこれと策を弄す
る人の多きに

教会の御堂に立ちて被災地の人を思ひて祈
りけるなり

十字架の主よわが国とくにたみをこの災ひ
ゆ救ひたまへや

荒れ狂ふ世にも主により喜びつ樂しむ身こ
そまことなりけり

国力を半ば失ふこの国の先は氣概と知恵を
もどひに

主にありて喜びみつる我れが身の樂しむ
日々の糧に感謝す

神さまが在られることの真実をくり返し読
む詩篇三十二

主と共に在りし我が身のうれしきと喜びの
日を常に樂しむ

まほろばを牙をむき出し襲ひくるふくれる
海の黒き山波
原発の基地の破壊に放射性物質の天地を犯
しゆくなり
人災の恐怖を今に顧みてこの先ひとはいかに
に生き行く
おひなる津波が日本の原発の基地を破壊
しあどのおぞまし
オプイスの七階に居て毎日の余震に耐へて
事に励めり
このビルも揺れにかよわく縦横のゆれにあ
はせて我もゆれおり
オプイスの窓に眺むる界隈の銀座の群れ
も揺れにゆれけり
何事もなく眺めしはうららかに真澄のそら
の果てのかがやき
東電の株を資産として長く持ちこし人の暴
落に泣く
東電の株を安全と先を見てたよるあまたの

老ひし人あり
国たみの天災にあふどさくさに難をのがれ
て稼ぐ者あり
春かすむ弥生の空のおほろげに花ちる宵の
気仙沼の海
松島の海に小舟をめぐらせてはるかに旅を
しのぶ夜かな
おほなるに起きたる波の山と化し海が狂ひ
て押し寄せて来ぬ
ふるさとを襲ふ津波に身をとりたる人らに神
の御霊あれかし
盛り上がる海は次第に山かさになりて陸地
をおおひくるかな
東電の株を秘かに持っていた妻があきらめ
顔に申せり
おとなしく真面目な人が東電の株を大事に
もてる向きあり
顔みれば東電の株なぞ買ふまじき経営者の
みな味わいなきに
賢治のうたをよむる
陸奥の越前高田てふ街に思い出深き女と逢
ふ瀬よ
おほなるのあとに大波の襲ひきて廢墟とな
りしひき波のあと
ははの手を放して海に流さる廢墟の町に
ひとりたつ見よ
起ちあがる民の力に希望もちゆくこの国の
先を望まん
ゆるる地の十字架の主の贖ひに被災の民を
なげきかなしむ
あめつちを治めて全知全能の神をおもひて
被災地に立つ
不条理の世をなげきてもさはさなりまこと
の道求め行くかな
天然の力を前に止めがたき天変地異の荒れ
くるひけり
村長が村民を連れ大奉して移住を図るしゆ
つたつの朝

年老いしおのこがひとり岩に立ち瓦礫のはらをつめすぐせり
天然の定めにて生きゆかむ春に燃えたつ樹の芽ながめつ
おほなると津波に埋もるさに夜の明け染めし海鳴りの音
新しき視点に立ちて被災地の再建復興に国を創らむ
戦災の一面焦土のあのときを思ひとどめて国を興さむ
天災のあとに人災の襲ひきて国の存亡のかる今なり
被災地の東方洋上にアメリカの精鋭隊の船の配置す
日本を原発事故の被災より救はむとするアメリカ艦隊
地震より怖はきもの今放射能汚染に怯ゆ日々の暮らした津波きて船をこわして流し去るその爪あと

排出によって、放射性物質によって汚染された大量の水が未だに止められないでいます。危険な放射性物質が空気中に、海水に拡散され始めて、事態は深刻であります。大気や海は、国境がありません。危険事故の発祥地が日本であつて、隣国を含め、周辺諸国に影響を及ぼすような事態はなんとしてでも避けねばなりません。既に日本の産物や製品の輸入を止めている国も出てきています。

国を挙げて必死の緊急対策が打ち出されて
います。事態を重く見た外国からの救援隊も参加しています。アメリカ艦隊はいち早く、三陸沖の太平洋上に配置され、救援活動に原発事故の処理に献身的活動をおこなっています。原発大国のフランスは首相が先陣を切つて来日、原発事故の専門的処理班を送つてきています。事出と恐るべき拡散に対して世界的、地球的規模の陣容で備えています。わが国も国民も日夜

義援金募るわらべの美しき笑顔にふれて申しいでけり
大なると巨大津波に奪はれし人のみたまの安く在れかし
みほとけの情けにふれて黄泉にたつ人の旅路の安くあられし
かなしみに打ちひしがれし被災者に神よ方と恵み給へし
新しき視点に立ちて被災地の再建復興に国を創らん
戦災の焦土に立ちて復興に目指すあの日を

懸命な努力を払い、色々な手を打つて試行錯誤を繰り返しています。前代未聞の災害に翻弄されて、残念ながら不安な毎日を過ごしているのが実情です。この窮状を打開し、一刻も早く正常な状態に戻すことが出来ませう願つて止みません。忍耐と希望を持って尚、原発事故の收拾に臨むべく努力、精進しましょう。

今年に入つてから地上は地下にうごめく巨大な、強烈なマグマの胎動に揺れています。地上は火山の噴火を始め東北から関東にかけて、東海岸は近來史最大と思われる天災に見舞われました。地震発生後の翌日、アメリカのオバマ大統領は日本の災害をいち早く知らせ、日本が壊滅的打撃を受け、アメリカは最大の支援を惜しまないと連絡してきました。日米逆転の立場に立つた迅速な発表であります。これに人災の原発事故も加わつて、日本は今、悪夢の危機的な状況に置かれています。炉心の冷却と

国家の危機に挑む
今年に入つてから地上は地下にうごめく巨大な、強烈なマグマの胎動に揺れています。
地上は火山の噴火を始め東北から関東にかけて、東海岸は近來史最大と思われる天災に見舞われました。地震発生後の翌日、アメリカのオバマ大統領は日本の災害をいち早く知らせ、日本が壊滅的打撃を受け、アメリカは最大の支援を惜しまないと連絡してきました。日米逆転の立場に立つた迅速な発表であります。これに人災の原発事故も加わつて、日本は今、悪夢の危機的な状況に置かれています。炉心の冷却と

のおぞましきかな
三陸に地震と巨大の津波きて港の街を呑みこみてゆく
(四月二日)

思はんばかに
 山道にこより下に建てるなど先祖の教へ
 をするす右文
 天災のあと人災の襲いきて国の存亡にあり
 此の国
 安閑に奢るこの国の民に今悔ひあらため
 の時を授けり
 農村と漁村の人の災害の癒しがたきに悩む
 わが民
 東北の産地の野菜の放射線浴びしといひて
 棄てさられけり
 丹精に育つ若菜は放射能浴びしといひて忌
 み嫌われり
 世界より頑張れ日本と熱き声地球のまるき
 ことを覚へし
 被災地の東方洋上にアメリカの艦隊配置の
 異常事態に
 日本を原発事故の被災より救へど決死のテ
 ヌリカ艦隊

原発の危険物質を公海に流してしらを切る
 愚か者
 百尺に及ぶ津波は船を押し民家の屋根に置
 きて退く
 岩礁に当たる津波はみずばしら上空高くあ
 げて散りけり
 あめつちを創り給ひし神おはしそれを破壊
 す人の群れあり
 人災の恐怖を今に願みてこの先人は如何に
 進まん
 安閑に奢りてすこすこの民に神は愁ひて道
 をさとせり
 扱ひにてこする間にも放射能見えぬ恐怖を
 世にも散らせる
 原子炉に酸素だ水素だよう素だと爆発を避
 けのがる人らよ
 経済の落ちこみけはしこの国の原発事故の
 洗礼を受く
 事故続き失敗続きの五十年人災続きのこの
 災害に東北地方の経済の破壊はしく先に
 及べり
 日本の経済力の落ち込みにいらだち覚へ日
 夜はたらく
 この国の危険を避けて外人の離れて街にお
 もかけ絶へし
 街なかの店の灯りも消へふせてひとの行き
 来のなきはさびしき
 この先の長きにわたり原発の恐怖とたたか
 るこの国の民
 原発の基地竣工に湧きかへる地元福島は今
 は悲劇に
 原発の破壊におのく住民の死の元凶を断
 ちがたき今
 セシラムの飛散の数の無限にて宇宙の星の
 教も斯く又
 天災の地元経済を直撃し操業不能の工場多
 し
 放射性物質拡散の大量に被害甚大の日本列
 におちにけり

島

慨嘆す原発事故の発生にはつかずるにな

ほ収めえし

隠蔽とおごる姿勢に東電と政府もまじへ疑

ひにけり

原発の事故に打つ手の後手後手に解く手の

なほも詰まる思ひに

松島の離れ小島に白き舟漕ぎて被災のさま

を見るかな

松島の離れ小島のうららかにさくらのはな

の咲くをながめむ

海の辺にひとのすがたの絶えてなくかもめ

の群れの舞ふは変はらし

災ひに気付きて神の悟しと思ひ起こして先

を進めり

原子炉の温度上昇に危険度の日にけに増し

ておびゆわが民

恐るべし炉心溶漏のマルチタウ^{タウ}悪夢に汗

をかきて目覚めり

の岸にたつか

つきいでし島かげ青き十和田湖の岸へに立

ちて逢ふ乙女らと

れんげ咲く阿武隈川の堤にて息子と憩ふみ

ちのくの旅

磯はまに打ちよす波の音清くこころに染み

し遠き日の旅

天童の宿にとまりてせせらぎの音のさやけ

き月の夜かな

東北の地に朋友のあまたいて国の被害に嘆

きわするふ

みちのくの青きる春のまほろばを乱し壊せ

るものは何ぞや

おもいで^いの修学旅行に釜石の港に泊まる船

のともしび

松島の鳥をめぐりて鶴亀の謡にあはせて春

さかる郷

はらはらと気のやすまる時もなし原発事

故の現場あらはに

手探りのままに過ぎたる三週間原発事故の

修復ならず

福島^{福島}の原発基地の大惨事民の被害の計りし

れずも

国力の低下に及ぶ原発の事故の防止に手立

てなき国

産業の根幹ゆるがす原発の事故と汚染のと

どめなきかな

此処よりは下に家を建てるなど石碑に先祖

の教へ彫らるる

いさり火の海の闇夜に灯る船いざはなれ行

くさらに沖へと

学習を終へみちのくに旅立ちの夜汽車にな

がむ灯る港よ

みちのくの旅の息子につきて行く芭蕉の興

の細道のあと

十和田湖の岸べにたちて手をあはすあはれ

天より降りし乙女よ

みちのくに初夏の風をよききてさぞなむ湖

冷却を逸し炉心の爆発に至ればもはや救ひ

がたきに

何か良き方法はなきものかも石棺をして

封じ込めては

炉を殺す術もなき今神さまに祈るしかなき

ことを夢にも

手際よく何故やれぬかと原発の事故修復に

詰まるこの国

慨嘆を越えて怒りに変わりけりそそうを犯

す者の始末に

日本に起きて世界に原発の事故の被害をお

よぼすに大

大学の実験室でもあるまいに試しと後手に

解決を得で

みちのくに巨大地震のおきて今またたく

間にも月がすぎけり

みちのくにわが友がきの多くゐて思ひわず

るふことも多きに

おほなるあとの余震の止まざるにおの

き暮らす被災地のひと

被災地の瓦礫の山にふるさとの思いもくじ

け涙流れり

放射能汚染の水のあつかいにこまねく間に

も広くまびるぐ

野路に立ち旅人を見つめ流さるる仏のあり

て嘆きかなしむ

見据えたるまなこ鏡く石佛の荒れたる国を

眺めかなしむ

惨めなりありあみじめなりこの被災天の配剤

かくも何ゆえ

天然の災ひに会ひ痛ましきみちのくの世の

いまだ癒さじ

惨めなりありあ痛ましきみちのくのよるずに

襲ふ災ひのあと

みちのくに春來たりなばほととぎす何事も

な鳴きぬさかりに

ててははと別ればらからを失ひし童がひと

り先のいかにも

び犯し行く

原発をもつたる国は死の灰の定めにかがる

道のすべなき

目に見えぬ放射線のこの国の土と海とを侵

し行くなり

この国の土に生き行く真面目なる人らを刺

して殺すこの先

雨音にうなされ起きぬ黒き雨とも見たがく

し夢のふかかな

原発に反対の妻は賛成の齋藤先生に問ひし

昔に

良識の斉藤長官すら推進す危険の原発基地

の建設

大規模の土地の地盤の沈下にてなるの力に

消ゆる国土は

広漠の豊かな土地を失ひて再起の道に覚ゆ

くやしき

原発の事故にわれらがこの先を案じて富士

をおほきみるかな

被災地に春めぐりきてあらくさの花にあか

るき望みいだかむ

被災地の古き校舎の庭に咲くさくらの歌を

歌ふわらべら

菜の花の咲く庭畑にさきやかなわが幸はせ

を思ふ今朝かな

庭畑に立ちてここにも放射能ありし思へば

うろたへにけり

毎日の新聞を見て煩ひぬ死の放射能に触る

る思いに

目に見えぬ死の元凶の放射線物質におびえ

慣れぬ日にけに

ふなびとよいざうなばらへ漕ぎいで上大漁

のしらせ寄せるはえの日

放射能おびし木の葉のいかならむ萌黄にそ

めし色のふしぎさ

人のみにあらで生きとし生けるもの死にた

へゆかば何ぞむなしき

日本の国より世界におぞましき放射線の飛

みてすぐる夜

開国と敗戦の日とこのたびの大震災に耐ふ

るわが民

目に見えぬかの放射線に浸る世の悪魔がさ

さやく夜におびえけり

戸惑ひてわすらる世こそいとまれぬ原発事

故のあとの始末に

とどろくと燃えてかがやく朝の陽のまぶし

き果てにのびるうなばら

山なみをはるかに望むたかはらにうぐひす

の声やまず聞こへく

庭畑のみず菜を採りて味噌汁に今朝のすが

しく春さかりなり

庭はたの青菜を摘みてよく洗ひ朝餉の炒め

ものとはめしも

被災地の港をはなれ山道を行くききに咲く

山ざくらかな

被災地のすみに芽生へしあらくさの青々し

げによみがへる地よ

(四月六日)

放射線物質の避難区域よりふるさとを捨て
のがれいく子よ

天然の恵みに生きる良き人をことわりもな
く奪ひさるとは

暖かき手をさしのべて励まざる被災者たち
へ天皇の旅

被災地を訪ね悲しむすめらきを癒しなぐさ
む水仙のはな

平成の道けはしとすめらぎの民と苦しみ
分ちいくかな

苦しみに耐え悲しみをうちけして明日に生
きる被災地のひと

にくにくし巨大津波にさらはれし人のみた
まの安き祈らむ

天災に追いつちをかく原発の事故におそは
る日よ

原発の危険を述べて長官に妻が禁止を訴へ
る日よ

原発に絶対安全の保証なし万が一のときに
如何や

日本の科学技術の最高に原発事故のなすと
する氏は

今に思ふ妻の齋藤長官に原発につき問ふは
いみじき

原発の炉心溶融の危機を問ふ妻に答へる齋
藤長官

るこの国のひと

遅いきし国の難事に立ち向かふすべての民
のいかばかりかや

おおなると津波に命を奪はれし民のみたま
の安くあらまし

暗黒の海の底にも沈もれしひとらに神のみ
手の熱きも

うららかな祖国の金に替えがたき悪魔の手
にもかかり問えり

この国を救ふ道こそたつとけれ如何なる術
を講じ行かむや

想定外予想外にて想像外すべてに責務をの
がれんとす

今むかし科学技術庁長官の講演に原発のこ
とにふれしも

原発に反対の妻賛成の齋藤長官に問ふ放射
能危機

講演会にて斉藤長官に質問す原発危険の
多々ありしこと

のあとの暮らしは

原発事故による放射線物質の拡散が依然と
して止まらない中、半径二十キロ内の警戒区域

が設定される深刻な事態になりました。立入禁
止であり、地域の封鎖を視野に入れた、第二の

チェルノブイリの惨状と廃墟を想起させるも
のであります。広大なロシア連邦の国土ならい
ざ知らず、たかだかその四十六分の一しかない
日本の事でもあります。土地の単位当たりの人間
の文化支配度、経済貢献度はもとより、区域内
の人口密度も然り、単位当たりの土地の価値は
天と地との差であります。汚染によつて喪失す
る土地の経済的喪失と損害は計り知れません。

事態の深刻さが窺えるでしょう。
事故発生後、既に一ヶ月余が経過しています
が、懸命な修復活動にもかかわらず、福島原発
事故の現場は予断を許さぬ状況が続いていま
す。依然として日本国と日本国民の悲劇的狀況

が、不幸にして消えずに行く手を阻んでいます。大地に、海上に散らばる放射線物質は、我々がわからない数字によつて、その汚染の膨大さが逐次示されていますが、今のところ改善の兆しはありません。恐るべき事態に、我々は不信と不安の毎日を送っていますが、暗然とした将来の見通しに忸怩たる思ひでおります。世界の技術を集めて、外国の援助は謙虚になつて受けなければなりません。巨大企業の東電には情報公開をためらい、奢りと隠蔽工作に慣れてきてしまった積年の企業体質からいまだに脱却できない習性があつて、事態を一層悪化させているのです。加えて時の政権の足もとがぐらついていて右往左往する有様で、対応振りに不信任感を募らせるばかりです。

科学技術の先進国として世界に大きく認知されてきた日本にしてこの始末とすれば、現在、原発を所有稼働させ、建設中のものを含めて世界の国々が危機感を以て、日本の状況の推移を

ロリストのボス、ピン・ラゲインが米軍によつて射殺されたとの報道がつい先ほどありました。世界を恐怖の底に落としめ、人類の平和な生存を犯してきた最大の敵であります。狂信的で凶暴な信徒を身の周りに巧みに作り上げ、こうした分子を世界各地に拡散させて無差別テロをそのかし、人々を震撼させてきた人物であります。世界の各地で、テロの牙にかかつた老若男女の数は計り知れません。

ボスとその一味は無知蒙昧な貧しい人々たちを金で操り、自爆テロに駆り立て、無差別の殺人を犯し続け、自ずからは莫大な資産を稼ぎまくっているに違いありません。殺人の暴力によつて秩序と平和を破壊する無頼漢であります。今、日本の人たちは、同時に世界の人たちも含めて、福島原発事故によつて大気と地中に拡散される放射性物質の汚染に苦惱しています。その放射能の拡散防止の解決に懸命であり、すが、二ヶ月が経とうとしている今、未だに決

見守っているところです。人間の生命の危機を犯してまで、危険極まりない化物に斯くまで翻弄されてまで、我々の生活の贅と欲を追い求めていく必要が果たして現実的なものでしょうか。一歩踏みどまつて考えてみようとする動きが、遅まきながら世界の各地で始まっています。

現状の危機的状況と厳しさは、此処でどやかく議論していてもはじまりません。一刻も早く現場での混乱と被害拡大を防ぎ、その収束すべき手立てと行動に徹するしかありません。収束に当たつている現場での作業員の果敢な行動に、その安全に、神のご加護あらんことを祈るばかりであります。(四月二十日)

テロリスト。ピンラゲインに天誅降る
九・一一のテロ実行を企てた凶悪犯罪者、テ

定打のないまま、苦渋の日々を過ごしています。テロリスト・ピンラゲインは、この放射性物質の拡散と同様、世の中と、人々の生活の安全と安心を、平和と秩序を根底から揺るがしてきた元凶であり、人びとの尊い命を奪つてきました。卑屈で凶暴な彼はようやく天誅にかかり、正義の剣によつて葬り去られました。この先、無法者のテロリストたちが一刻も早くこの地から一掃されて、安全、安心の平和な社会がもたらされることを念願して止みません。

テロリスト・ピンラゲインの殺ざるニユーヌに世界の平和築かん
世の中を恐怖の底に落としめしピンラゲインを遂に射止めし
テロ思想撒き散らしたるピンラゲイン神の裁きの今しくだれり
聖戦と称し自らからは戦はず若者たちを死

*

へかりたり

山岳にこもりて挑むと思ひきや豪邸に住

むビシテインからは

自らは戦いの場に出ずるなく若者のみをそ

そのかしく

戦りつのテロの現場を思ひこす九・一の

貿易センター

世の中は九・一を境とし無益に過す十年

の間

不条理を解くに条理を以てせで世に臨みし

は愚かなりけり

訴へるすべを知らずの上に立つ者の責務を

顧みるべき

人の世の栄えは経済のみならず和を尊びて

文のみやびに

あなかしこひとの教へは古き世のかしこき

文にありていみじき

今になほ徒然草をよみてすぐ月のあかりに

とものそのふみ

(五月二日)

務能率の向上にも良い結果をもたらすことが

出来、災いを転じて福となす結果となり喜んで

いるところであります。監督官署の文書課から

は震災の翌日、安否を気遣う電話を頂き感謝し

て居るところであります。隣室は一月にオフイ

エスのテナントが他に移転したあと改装され

たまま暫く空室となつていたもので、同じビル

なので移転通知の必要なく安堵しております。

これは、確實に神さまがこのときのために用意

してくださつたものだと思つております。

こうした混乱のなかでしたが、当会の平成二

十二年度の決算報告を骨子とした社員総会が

去る三月二十四日開かれました。二十二年度の

決算報告と事業活動、そして二十三年度の予算

報告と事業計画を慎重に審議した結果満場一

致で決議承認されました。そして昭和経済会

の将来を展望した躍進の指針が盛り込まれた総会が、

全会一致で決議されました。

此処で注目してご報告すべき点は、若い青年

二十一年度社員総会の模様と

事務所の移動について

去る三月二十五日にわがホームページに掲

載した情報を、改めて此処に掲載し各位にお伝

えいたします。大震災の影響は当会にも及びま

した。本部を置く城辺橋ビルの若干の損壊が、

当会事務所にも及び、七階にある通信機器が機

能しなくなり、回復までに日数を要しましたが、

その間、支障をきたしたものの、会の活動に遅

れを取ることもなく順調に推移してきたこと

は幸いでありました。職員並びに研究員の迅速

な対応で、間もなく通常の活動業務に従事継続

できたことは、日頃の危機管理の意識と訓練が

奏功したものであると思つております。

この機を捉え、事務所を隣接の新規の部屋に

移動することになりました。現在のところ八割

方移動を完了したところであり、職場環境と事

諸君の活躍と成果でありました。思うに昭和経

済会の七十七年の歴史の人脈と、活動の知的蓄

積の財産は貴重であり、他の追隨を許さぬもの

であります。先達と会員各位の弛まぬ努力によ

つて得た磐石の基礎にたつて、創立の趣旨を全

うし、若い諸君たちの参加によるエネルギーの

発揚は、これからの日本の発展にとって重要且

つ不可欠の要素と確信するものです。

監督官庁の財務省文書課へ提出された総会

の様様については、別紙「お届け」にいみじく

報告されておりますが、先にも述べましたとお

り、その次第についても総会翌日の三月二十五

日の理事長室のホームページに発表されてお

ります。ちなみに役員改選に伴い、新たに強

力な布陣を以て将来の活動に向けたところで

あります。特色は推薦と選挙によって有能な若

手経営者が選出されて、更に優秀な人材の登用

が実現、確実視されたことでもあります。これを

機に創立の理念を更に高く掲げて時代の先鞭をつけて、会員各位とともに目標と使命を内外更には世界の平和と、秩序と、発展を期して活動していく所存であります。

願わくば多くの市民が、企業経営者が、更に有識者がこぞって当会の活動にご賛同いただき、ご参加されますことを期待しております。

(五月十日)

若者が活動の場をもて才能と創意発揮の道

を行くべし

不可解な原発処理

最大の国家存亡の危機に立ち原発事故のいまだ決せず

事故に関する情報提供は曖昧で、「住民の健康に重大な影響はない」という前置きと結果で、

相変わらず放射性物質の新たな情報だけが、異常な数値だけが頻繁に発表されています。放射

能は確実に我が国土と、上空と、海に広がって

います。影響するところは、人体と生命に

不安な毎日であり、いち早く逃げた在日

中の外国人や観光客のように、逃げる術もなく

日本国民は次第に高まる危険性のなかに置か

れたままであります。東電や、原子力安全保安

委員会や、政府など、勿体付けて発表すること

も二転三転の有様で、儀式的であり、何処まで信用していいのか実際のところ分かりません。

放射線物質の漏出が止まらない限り、刻一刻と汚染の規模は拡大するばかりでしょう。不安は募るばかりであります。

第一原発の建屋が物凄い規模で破壊された時、燃料棒が熔融につながる可能性、信憑性のあることをほのめかしておりましたが、現実の

私は計らずも四月三日のホームページに次の歌を詠んで、原子炉の爆発と熔融の結果、膨大な地球汚染の恐ろしさが拡大されていく可能性を予告しております。

恐るべし炉心熔融のマルチタウン悪夢に汗をかきて目覚めり

今さら論じたところで仕方ない、批判した

ところで始まらない、とにかく放射性物質の漏出、拡散を防ぐことに全力を傾注することです

が、二ヶ月が経ってもいまだに止めることができないのであります。これに関する限り、状況の進展は四面楚歌と云つても過言ではありません

ん。しかも炉心熔融が地震発生の数時間後に始まっていたことが今になって分かったという

ことで、東電の信頼性が益々なくなってきている感です。

問題となっておりました。私が判断したことを

そのままこゝで書いておきたいわけにはいきま

せん。人びとを扇動して必要以上の不安に駆め

たりすることにほなりかねません。しかしなが

ら昨日の東電の発表によると何と巨大地震と、

巨天津波の発生した五時間後には、原子炉の燃

料棒の熔融が始まって、原子炉の底にたまって

いたということ。底に穴が開いて大量の高

濃度の放射線水が漏出していたということ。東電は二カ月後の昨日に至ってこれを確認

したということであり、なんと言うお粗末な話でしょうか。あきれて物が言えません。国民の怒りは心頭に達していても、泣く子ど地頭

には勝てぬとは、腹立たしい限りですがどうしようもありません。

八十八夜をすぎた時、静岡の新茶に放射能汚染が確認されて出荷自粛の措置がとられました。三段の名瀑で知られる袋田でも、農家の栽培するほうれん草に基準値を越すほうれん草

が見つかって、出荷自粛を要請されたそうです。茶摘の歌は私たちが小さいころに、誇りと憧憬をこめて歌ったうたです。「夏も近づく八十八夜、野にも山にも若葉が茂る、あれに見ゆるは茶摘じやないか、赤ねたすきに菅の笠」と、その昔、童謡、小学唱歌で口ずさんだ心のふるさと、日本の原風景であります。得体の知れない放射能が、新茶に測定される事態となりました。拙宅で作る茶園も、もはや放射能に汚染されているかもしれませぬ。自分の畑だけは大丈夫だなんて奇想天外なことは云えなくなりました。今年、大量作のほうれん草ですが、「良く洗ってからにしないと」と冗談に云っていたことが、本当になってしまいました。毎日の生活が放射能汚染にかかるとは、まことに恐ろしい現実になりました。放射能が東京にも少しづらいは降ってくるだろうと考えてはいましたが、これが現実になってみると、流石に驚きであります。

この先の基地の破壊の亡霊にうたされる夜の無きは安しも
東電が隠せる事実の教々に陰湿企業の内部あばかる
金儲けし過ぎの企業東電の怠惰にすぎて何も成しえじ
放射能物質の汚染にむとんちやく次第になりしこの国の民
放射性物質汚染にあきらめて打つ手のいま
だなきは悲しき
セシウムの土壌をはかし子供らを遊ばせる
てふ原始療法
静岡の新茶のかほりも放射能汚染にあひてさびはてにけり
被災地の初夏の緑の道行きに神を讀ふる歌の聞こえく
聖霊のささやきと聞く五月雨の花咲く野べに舞ひておりくる
ててははを失ひはらからと別れきて少女が

ひとり立ちて生きゆく

原発にかかるとは利益を獲ぐこ

とを学べり

原発にかかるとは経費の安きゆへこの思惑に傾

斜する世は

安全の基準をおきても危険なり安全が通じぬこの世界ゆへ

人間の贅をつくして限りなしれ破綻の道をおちゆく

天つちを削り給へる神なれど取り壊したまま

ふこともありけり

天災と人災の見事に重なりて見事に演ずる原発の危機

このくにに原発の危機を知りえずに経済利益のみを追ふひと

原発の専門知識を持てる人無きゆゑ空て試

行錯誤に

困難のなかに国民を省みず政争に明け極む醜態

毎日、原発事故と放射能汚染のことばかりが頭にあつて、だんだんと慣れてきてしましましだが、しかしながら目に見えない魔物だけに、得体がつかめないだけに不安が増幅されてきています。この不安の怒りをどこにぶつけようにも、国民には為す術をしません。かわらないままのイライラした毎日の生活であります。

(五月十七日)

*

浜岡の原発基地は中電の稼働中止を受けてよしなり
おほなるの再び来なば浜岡の原発基地の破壊あらたに
浜岡の基地の被災は甚大に日本沈没は回避し
したがき
浜岡の原発中止に英断の中電社長の人となりしや

国民の所在を無視し国難のなかを政争にあ

ける政治家

幾万の被曝者を見よ被災地のセシウムの雲

空を覆ひて

艱難と辛苦に耐へてこの国を今建てなほす

時と定めん

セシウムのなかを耕す農民の笠に激しく雨

の降りけり

庭畑の自家栽培の野菜にもストロンチウム

の帯びておるかも

庭はたの土をおこして妻と植ふ苗いとほし

く思ひけるかな

ぼつりぼつ降りたつ雨に無意識にセシウム

避けて家に入りしも

放射能汚染のもとに生きる術この先如何に

あらむ覚へし

中古車の不足に走るダイラーの稼ぎの時を

得てたくまし

東北に新たな都市を打ちたてん海やまにあ

子供らの遊びを奪ふ放射性物質の飛散に怒

るてはは

原発の事故の汚染に物心の苦しみに耐へず

ぐるこの日も

主とともに歩むわが身に惑ひなし自信に満

ちてことにあたらむ

十字架の主をあほぎみて東北の被災のひと

の先を祈れり

原発の事故はこの国に止まらず境なく行く

放射能の輪よ

原発の事故に生きとし生けるものこのまま

全て死に絶へてけり

被災地に国会を移して議論せよ苦渋の難民

の救ふべきなり

この世にて今拡散す放射能、テロの悲惨の被

害及びり

電力を安く供して安全と原発神話の崩れ落

ちけり

事故のち燃料棒の溶解すマルチダウンを

ふ豊かなる地に

何時までも自粛の末に復興の息吹も得では

元も子もなし

生活のさまを改め新しき世にふさはしき粋

を築かん

省エネに励むこのごろの生活に馴染みて原

発基地の要なし

原発に頼らずさらに新しき熱のはじめを求

めいく良し

難民を救ふ手立ては景気付け祭囃子で村を

興せん

月の夜の祭囃子に躍り出て皆若者に奮いた

つなり

陣太鼓鳴らす若者に腕を上げて足踏みをする

年老ひしひと

乳飲み子を抱へて踊る若き母被災に負けず

起きるすがたよ

捨てられし家畜を求めんと涙ながら

に寄り添ひにけり

知らぬばかり

原発の国策を無為に推進す先を見越せぬ政

治やの今

あたふたと今しも事を収めえで罪を重ねる

上に立つ人

連綿と祖先が築くこの国を愚か者が今つ

ぶしける

東北に生活基盤をおく友のあまたにをりて

心ゆれをり

原発のまさか事故などあらざると学者政治

家の民をだませり

この国の民はいづくに原発の被害を避けて

いくを知らずや

原発の事故の被害を避けて去る今よそのもの

の海をわたりて

有能の政治家もをるこの国にそれを信じて

先を行くべし

新しき時代を目指し立ち上がれ若き学徒よ

勤労者たちよ

精銳の若き諸君よ立ち上がれ震ヶ関にあか
ときの風

原爆の一千倍もの放射能広島を越へ日本各
地に

この国の先を思ひて苦吟する経済評論家の
声を聞くなり

副島のこと気にかかり論客の汝が云ひわけ
を聞かぬ者ども

今の世に稀なるひとのありしなば君副島の
思ひだけきも

原発の事故の対応を誤りて杜撰に怒る副島
大兄

この国の先を憂ひて苦吟して疲れを覚ゆと
副島大兄

新しき世に新しき杯に新しき酒酌みて船出
す

荒波を越えて沖へと船出せむ七色の虹空に
かかれり

志高くかかげて若者よ新しき世に踊り出で

悲しみの被災に痛む日々にしてなほ解けぬ
日の今にいたりぬ

被災地を激しく見舞ふこのころの梅雨と思
ひてこころ重しも

荒波を越えて沖へと船出せむあしたのあき
の輝きのなか

主とあゆむ道に憂ひと惑ひなき希望に喜び
あふる日々なり

貪欲の偶像礼拝と指摘せり聖書がいみじく
諭したまへり

みちのくにただひとり立つ道祖神引き波の
あと荒れし野辺なり

名も知らぬ寺のほどけに花そへてみ霊安け
く祈りきてこし

おほなるの窺ひしれずうちしめる青うなば
らのしげこころなき

春日野の大寺に座し天たらすほとけが我を
見守り給ふ

困難に隣近し兆しども富士の高嶺に映ゆる

ばや

われもまた君らに伍して進まんと苦難を越
えて跳び行かんかな

艱難と痛みに耐へてこの国を再び希望の星
となさしむ

失敗と犠牲を超えて逆境にあるこの国を神
よ救へや

キリストもほとけもなべてうつしよのひと
をすくひていやしたまへり

十字架の張りつけに立つキリストの愚民の
罪を背負ひ逝きしも

キリストの愛を授かり罪深きわれらもつと
に生きていきしに

三日のち死ゆよみがへるキリストのとはの
命をいみじくも得て

今もなほあまたのひとのなきがらの海の底
べにありて悲しき

世のひとの奢りたかぶる富みの道をどざし
て神の立ちます

朝の陽

新しき国をば創る気概にて奮い起こして若
者よ起て

困難に臨み力を發揮していざ獅子奮迅の若
者よ起て

そもそもが地震火山の上なるに原発基地の
かなふあたはず

原子炉の基地の破壊に放射能口に出さねど
われおびえけり

火山国、地震国この国に原発基地の危険知
るべし

経済の発展と栄えの享受より人の命のあれ
ばこそなり

この月もケセラケセラで過ぎしきて何事も
なくこれ良しとす

何事もなく無事息災を喜びて争いもなく過

きしこの月

大震災、大災害をうけてなほ復興一途に燃ゆる国たみ

経済の落ちこみあるも速やかに回復に向く民の努力に

定めとは云へ情けなしこの年に恐怖の生死の海に生くんは

これほどの恐怖の世界をもたらし性懲りもなく鳥合の衆よ

あじさゐのここにも咲きてしみじみと気仙沼の旅ぞぞる身にしむ

災害を史上最大と認識しきは株式の暴落のなきは

新しき技術と業に取り組みて資本をそそぎ道を拓かん

塩害に苦しむ農家に大規模の農地造成を一気呵成に

三陸の豊かな漁場を住処とす漁民に広き海を与へん

原発基地の破壊と復旧は依然として改善を見ぬままに、早や八十日がすぎようとしていま

す。その間、基地から漏出する放射線物質は少なくなるところか、小康状態とはいえ徐々に範圍を広げつゝあることが以て気がかりであります。この先新たな劣悪な状態を惹起せしめな

いよう細心最大の努力が払われていくよう願いたいところであります。

福島原発事故で今後の原子力政策が大きく軌道修正されることは確実であります。否、原発基地の存在が、我が国にとって懸念すべき最大の元凶であることが漸く認識されるようになりまして。今までは原発反対と言つと極めて限られた人たちの偏向的思想と白眼視されがちでありましたが、いまや見識は大きく転換されました。新規の原発基地の建設は絶望的とい

つていかもしれません。原発反対の機運が世界的に大きくなつてきました。先進国

の日本で起きた福島原発の惨状とその後苦悩を見れば言わずもがなであります。今ある基地を如何に事故なく運転して、あらゆる障害に對して防衛体制を敷くかにかかつてきました。被災地を外から見ている私たちは、被災地の人たちのことを百パーセント理解することは出来てもその苦しみの実感は實際にしておりません。援助、救済をするといつても限度があり被災地の人たちの悲しみや苦しみを解消することは出来ません。私たちはここで大いに反省してせめてもの償いとしてこれからの世代の人たちがいかにあるべきかを教えとして残していくことではないでしょうか。いままでの考え方や価値観を変えていくことでしよう。そのことのために大きな犠牲を払ってきたことになりませんが、同時に毎日の節電奨励によって今までの節操のない滅茶苦茶な生活から、普通の意識を以て、正しい生活に戻つたのではないのでしょうか。世の中が大きく変化していつて

そこから新たな発見をしている人はたくさんいます。前進的発想の転換であり、新たな分野の開拓であり、新たな喜びの発見であります。原発の安全性を確保するといつても、それを保証する手立てはありません。むしろ一発事故を起せば、万事休すであります。その一発の是非にかけて一か八かで賭むほど、それ程原発が決定的な価値があるとも、説得力があるとも思えません。他に努力して為すべき方策が沢山あります。それにかけていくべきでしょう。発展する経済社会にとって電気の消費は不可欠な問題ですが、そのための原発は原発みたいな魅惑に映ります。麻薬依存症の経済社会から脱却して、投機的、墮落的体質から、経済の健全な仕組みを打ち立てていかなければ、将来の展望はなきに等しいといわなければなりません。何時までも試行錯誤は許されません。これは、わが国だけの問題ではありません。国際的な状況の展開でもあります。(五月三十一日)

するというのは当り前なことです。だから我々は小さな政府を作る、民間にできることは民間にやってみよう、地方にできることは地方にやってみよう、こうして小さな政府を作りバランスシートを圧縮をはかる、そして覚悟のアジエンダです。

先ず国会議員が自ずから身を削ることで、

国会議員の歳費を大幅に、給料三割カット、ボトナス五割カット、今年の冬のボトナスは全額自主返納するということが出来るといふ法案

を、みんなの党は提出したのです。結局、無視されました。で、皆さんが出してきた法律、皆さんは年棒四千万ぐらいです。月給二百六万円もらっています。さあその法案ですが、総理大臣の二百六万円の月給、どのくらい減らすと思えますか。今度の法律で、たった五千万ですよ。五千万です。何んじや二りやど、いくら何でも覚悟が足りないのではないですか。私は嘔然としましたね。あーこうした覚悟の総理では、こ

ります。日々多忙な時間を送っていられる故に健康にはくれぐれもご注意頂いて下さるようお願い致します。感謝して一言御礼申し上げます。

佐々木明子：テレビ東京の佐々木明子です。

今日ご無理をお願いしまして来て頂きました。先生、有難うございました。番組では何度かお世話になっておりますが、政治の話は勿論のこと、金融、経済にたけていらっしゃいます。可能な範囲で構いませんが、来年の景気の見通し、それから株価の見通しについてお話し下さい。実は先日、番組で質問させて頂きましたが、是非、皆さんにもご披露頂けたらと思います。

渡辺講師、政治家と云うのは、現状について先覚後楽と云いましょうか、やはり厳しい危機認識を持つ必要があると云うことを私は親父から教えられました。昨日の日銀短観でも判

れは無理だなあと云うことです。みんなの党はアジエンダの党、アジエンダというのは覚悟の政治行動という意味であり、ます。来年、多分あるであろう総選挙には百人以上の候補の擁立をしたいと思いますので我々上のお手伝いをお願いいたします。お早めに申し出させていただきます。以上、以上PRでございます。ご清聴誠にありがとうございます。

【質疑応答】

佐々木理事長：今日は渡辺先生にはご多忙のところ講演会にお越し頂き誠にありがとうございます。政局運営、経済運営につきまして、その施策を大胆且つ明快にお話を披露いただきました。「みんなの党」、そのアジエンダに乗っかって党が大いに飛躍発展して困難を処理して世界に飛躍して行って貰うべく今後の大活躍を渡辺先生にお願いする次第であります。

るように、少し下り坂に入ってきて、あとは海外要因、アメリカ、中国、こちらの方向次第では相当厄介な局面に入ることもありうると云うことを覚悟すべきだと云うことを申し上げております。アジエンダ減税は延長するようであり、ますが、剥げ落ちる時が勝負だと思っております。量的緩和第三弾でもやらざるを得なくなりました。またしても円高に見舞われてしまっています。この時、今の日銀の体制では機動的に運営できるとは到底思いませんので、その時は史上最高値を突破されて、相当厄介な局面になっていて、七十円でしたら日経平均が七千円と、更に六十円台、酷い時には五十円台などとなった時には、お手上げという危機シナリオも決して考えの中に入れておかないといけないのではないかと思っております。

司会 杉田 乾杯の音頭をロハスミッシュ株式会社 西村会長様にお願ひ致し

ます。

西村公統 政治家の方々は日頃お付き

合ひ致しておりますが、先生と呼ばないようにしてあります。先生と云う呼称が勘違いさせているのではないかと。渡辺覚首と呼ばせて頂きます。渡辺覚首とは生島さんの新年会で毎年お会いしております。今日は又、昭和経済会の講演を聞くことができ、大変感銘を以てお話を聞くことができ、心から感謝申し上げます。二〇一〇年も残り少なくなりました。今年一年の皆様のご健勝を祈ってお元氣な中で今年最後の集いをさせて頂いたことに感謝し、又新しく迎える年が皆様にとりまして幸多き一年であります。先生は又、昭和経済会の益々の繁榮と渡辺覚首として「みんなの党」のアジエンダを前面に出して更なる活躍を祈って乾杯いたします。声高々に「唱和下さい。乾杯！」

なっている方と云う用事があつたものですか

ら「両方の党に就いて公募を出している」と云うのは、これはまずいのではないですかねえ」と、「本人にも大変な汚点をつけてしまつて、あの人の将来はこれでは無いのではないですかねえ」と云つたら、「高木さん、そんなことないのですよ。今、自民党も、民主党も全く同じなのですよ」とお仰つたのですね。正に今日、喜美先生がお仰つた通りですね。先生は、ちやんと見ているのでしょうか。これは当り前のことなのかも知れませんが、やっぱりその辺に鍵があるのかなあと思いました。先生はそれを見通しておられる。

そこで渡辺さんが「みんなの党」を作つて、これからの日本を本當に大切に考えて頂いて、

と安心しました。私はフイナシヤル・タイズを毎日読んでいます。先生が、先生をYOH Partyと書いています。Our Party かと云つたら、Your Party でした。とにかく皆さんの為に

話を開いて安心しました。先生のお話の通り、自民党が、民主党もやりましたけれど、候補者を公募しましたね。私の知つているのが両方に出したのですね。民主党と自民党にです。結局自民党から出たのですが、それが週刊誌にのつてしまつたのですが、余り名前も売れていなくなつたものでしたから、余り大した問題にもならなかつたのでした。そのとき固有名詞を出してはいけません、今総裁に

なる党だと。フイナシヤル・タイズは英語の新聞ですが、嘘売とか朝日とか日本の人が書いています。英国系の方が書いています。You Partyとして、ちゃんと評価してくれてい

是非とも先生、先程のお話のように機会を生かして頂き、とにかく喜美先生はやはりはつきり物をお仰つて下さるので、こつちう方は珍しいのです。ただ云いたい事を云つていられるのではなくて、先を見通して云つて下さっている。先の先まで見ておられるので感服致しました。今は大変な時代ですが、是非とも日本を助けるためにお願い致します。私は、もういい歳ですが、小さい孫がおりますので、日本を良くして頂かなければ、どうしようもない。是非先生に頑張つて頂きたい。とにかく、今日は先生のお話を聞いて感服した次第で、ありがとうございました。

高木新一郎

喜美先生、本日はありがとうございます。

渡辺講師 政治家を志す人たちについて、最初は役人を志す人たちが多いのですが、最初はとても志が高いのです。ところが政治家になるには選挙に先ず合格しないといけません。そうすると、お金は掛かるし、その上肉體労働です。朝立ち、夕立ち、棒立ち、忘年会と云うらしいです。夏だったら、朝立ち、夕立ち、盆踊り。春、秋だったら朝立ち、夕立ち、運動会。これをやらないと票が取れません。そうしてめでたく当選して、大体十年間はやっぱり似たような事をやり続けるのです。東京出身の議員だと地元が近いですから、毎日、白ネクタイと黒ネクタイの両方をポケットに突っ込んで地元周りますのですよ。結局そうした状況の中で政策勉強は非常に疎かになります。もともと知能程度の高い人たちがたと思いますが、政策勉強をしなれば役人の云う通りになってしまいます。自前の発想などおいて、極めてステレオタイプな発想に嵌まって行くのです。これが日本

ろうと云って潰される。

一方、政治家は朝立ち、夕立ち、忘年会ですから、これが日本の政治、行政の不幸なのです。だからこれを変えないと、日本の未来はありません。日本経済の復活は無いのだと云うことを、実は私と親父たちが、もう平成の初めに考えていたことなのです。しかし皆んな死んでしまいました。で、結局生き残ったのが悪いけれどもあの権力闘争で、のし上がって来た人たち、権力闘争至上主義みたいな人たちが残ったのです。結局、もうこれは悪いけれども自民党も民主党も、ライダイムの大転換をできる政党ではないなど私は思いました。私は自民党に居たので、自民党を離党しました。ですから私は危機認識は厳しいものを持っています。しかし、自分たちの頑張り、やっていることについて国民は必ず判ってくれるはずだと云う超樂觀主義を持っています。これで先聲後楽なのだと言ふことを私は親父から教わりまし

の政治の悲劇ですね。一方、試験で選ばれた方の役人は、誰だって金儲けをしようと思つて役人になる人はいません。お国の為にと云つて高い志を以て入つて来ているのです。ところが日本の公務員制度にがんじがらめに縛られるのです。例えば、農林省であれば、毎年キヤリア官俸は七十五人位探ります。十五人は事務系です。残りの六十人は技術系です。技術系は例えは農業土木から始まつて、林業、林業土木、畜産の専門家も居れば、獣医さんも居るといった具合で、公務員制度が事細かに分かれています。そしてその公務員制度のもとで採用、人材育成、幹部登用、天下り。つまりその公務員制度のもとに政策の体系があら、大膽な政策転換が必要な時に、これが邪魔して大膽な政策転換が出来ずに、結局若手官僚が少しは大膽な政策を持つてゆくと、これでは先輩の天下りポストが無くなってしまつた

だ。政治家というのは超樂觀主義を以てしないど、はつきり云つてやられていません。自分の行動に確信をもっていないから、それこそ単なるデパ棒か詐欺師ですよ。我々はみんなの党のアジエンダが正しいと確信を持つてやっていますから強いのです。色々と言われますよ。こんなことを云つたら業界団体から支援して貰えなくなるとか、そんなことは百も承知なことでです。ですから、我々はしからみの無い、云いたい放題云わせて貰つて、そうしたアジエンダを作るっております。みんなの党に入つて来る人たちは脱藩政治家、つまり私のような自民党離党組も居れば、浅尾慶一郎のように民主民主党を離党して来た者も居れば、江田健司のような筋金入りの無所属で散々民主民主党に誘われたのに、みんなの党に来たという人も居ます。全員覚悟の連中ですよ。腕官俸、政治家、ビジネスマンです。早稲い話、こうした覚悟の連中が何人集まつて来るか

なので。私の直感ですと、こうした連中が三人から五十人集まると、日本の政治を動かすことができるようになる」と云う感触を持って

います。

井浦康之 皆さん今晚は、最初の十分ほど遅れまして大変失礼しました。八十二才ですから先生と云わずに渡辺さんと呼びます。色々な先生方が当会には見えて下さっておりますが、渡辺さんが来て下さったことが大変嬉しかったこと、忙しい渡辺さんをよく呼んで下さったこと、うことを理事長に感謝したいこと、この裏にはきつとあつちやんが居たのではないかとおもっております。昭和経済会には素晴らしい方々がいらつしやいますが、今回出席された方々は素晴らしい方々ばかりですなので、この百倍を考えて頂いていいと思います。先ほど渡辺慶一郎さんの名前が出ましたが、私にとつて自慢話があります。帰つたら渡辺慶一郎さんに私の名

良いのです。

その後 私の云ふことはびちつちと飲み込んで、それを見事に演じましたね。その後、素晴らしく成長した姿をテレビで見たりして喜んでおりましたが、よろしくお伝え下さい。これが一つです。それから阿部光利という人が今度は台東区の区議員に出ますね。彼は僕と知己の仲です。実は民主党に入れました。自民党を壊そうと思つてです。その後、民主党にはか

刺を見せて下さい。あの方が最初に神奈川から参議院に出たのです。あの時に話し方を教えたのは私なのです。

と云うのは、ある所の依頼で三菱重工の社長が来まして、実は渡辺さんに立つてもらつただけど話し方の特訓をして貰いたいんですというので。彼は日本の大学とアメリカの大学を出たのです。頭は良いのだけど話し方が下手だったので。大勢の人の前では話ができないというのです。一日だけ特訓してくれと云われたのです。思いのたけを知らせるには話し方が上手でないと相手に通じません。こうした肩はたくさん居ますね。そこで十五分スピーチ、十分スピーチ、五分スピーチ、三分スピーチ、一分スピーチをご指導しました。宴会場とか劇場の幕から出てくる時から歩いてみて下さい。背中を丸めていないで胸を張つて堂々と歩いて下さいと云つたのです。それと余計なことは話さない。来る人たちは会社のごで頭が一杯なので、考

つくりですね。騙されたと思ふ人は結構いるのではないですかね。その後みんなの党に入れました。他にいないのです。民主党は駄目、自民党は駄目、そうなら「みんなの党」しかないのです。で、お願ひしたいことは、色々な人間がいますから、みんなの党にふさわしい人物を是非選んで下さい。参議院議員の横撃みたいになつては駄目ですからね。一人変なのがある、他の全部が落ちてしまふのですよ。ですから入つて来たら徹底してよく教育して下さい。さもないと海老蔵みたいになつてしまいます。これだけしつかりやつていれば支持率と人気はどんどん上がつて来ます。

他に質問があります。お答えにくい質問かも知れませんが、世界の政治家、色々な国があり、政治の世界には裏に大金持ちがいて裏の政府があるとよく聞きます。簡単に云えばアメリカメンですかね。昔、中曽根さんも何かを

方でもって実際に、政治家をある程度動かせるのかどうか今、アメリカを越えて中国の某という名前を聞いたのです。そういう方が上になって世界を動かしているという話がありました。そうすると渡辺先生が頑張ってやっても、そうした人が来た時には吹き飛ばす力を持っていると思います。このあたりの実際のことほどうなっているのか、お話し下されば幸いです。

渡辺講師

私は謀略的手法といった考え方は取りませんが、多分影の勢力というか、スナクス実力者というか、そういう人たちは世界中何処でも居ます。特に金融の世界はロスチャイルド・フアミリーから始まった人たちの牙城とまで云われていますが、それがリマン・シヨックでボロボロになってしまったのです。ね。こういう時に、誰が出て来るかと云うとバチカンですよ。ゴットフアザーという映画がありました。あそこにもバチカンが出て来ま

ております。先ず「直感力」が鋭くないと政治家はつとまりません。それから民の釜がどうなっているか、人の心がどうなっているか、この皮膚感覚「実感」が必要です。そして「大局感」、つまり歴史観であり、宗教観であり、それから私はまだまだそうしたところにまで及びませんが、「大局観」を磨くということが、戦略的リアリズムの根幹にあるものだと思います。従ってスナクス勢力を私は妄信もせず、多分、多分、そうした人たちはいるのだから、あと云うぐらいの認識は持っております。

井浦康之 最後にお願したいのですが、政党的党首というのはお仰つたように理想と信念を持たないと意味がありません。そうした意味では、渡辺先生はアジエンダではありません。信念を以て日本の国を築きようと思つている感で、平成の坂本竜馬と思つております。民主党 自民党の関連の方がいたら申し訳ありませんが、日本を救うためには「みんなの党」

すけど、これは想像の世界ですが、多分そういう攻めざいがあつたのかなあと思つたりします。

オバマさんがボルカール元FRB議長を連れて来てやつた銀行改革は、もう正にこれから金融業では儲からないよと云うことが基調にありますね。それが成功するかどうかが判りませんが、ボルカールと云う人はウォールストリートから実物経済、こちらの方を大事にしなければいけないのだと、こういう感じのものだと思えます。政治家も最大の倫理、よって立つべきスタンスというのはグローバル・スタンダード、或いは支配的な theory、これを排除もしますが、妄信もしない、要は national economy の安定、国益を第一に考へるといふスタンスだろうと私は思つております。これを私は戦略的リアリズムと呼んでおります。

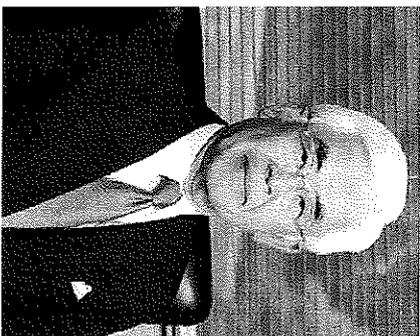
この戦略的 insight を支えるのは政治家の反射神経、これは私は直感、実感、大局感と呼んさいね。これが私の「大局観」です。

大学の経営改革の成果と 一般学生諸君に伝えたいこと

学校法人

静岡理工科大学 理事長

佐々木和男



学校法人静岡理工科大学の理事長をしております。今日は渡辺先生、有意義なお話をありがとうございます。まあ、学校と云えば先生々々というのが通常の話でして、誰もが先生なのですが、渡辺先生の場合は、渡辺さんと云わせて頂いた方がびーんとくる感じが致します。現在私は、日本がもつと教育分野で充実を図らねばならないという気概で現場主義第一で奮闘しております。元はといえば三菱商事でほぼ一生の仕事は終えています。また、新たにサウジ石油化学の社長に就任して六年間、経営にタッチする結果になりました。経済のグローバル化に先駆けて文字通り国際派を自認し、今日に臨んできております。その後、家庭裁判の調停委員を努めたあと、そろそろ有閑の身と思っていたところ、是非やってくれと懇請されて理職についております。

私は鎌倉に住んでおりますので、選挙区には

先ほど名前の出てきた浅尾慶一郎さんがいます。私は彼を非常に可愛がっております。彼は非常に真面目な性格なですね。彼のお爺さんは日本郵船の偉い立場の人だったわけですが、その時代に私も浅尾さんに近づけた経緯があって、その時にお孫さんが大変苦労して政界に出てこられてました。鎌倉と云うのは、地元に嫌な婆さんが居まして、その下で余りい目にあつていなかったようで、民主党を出て「みんなの党」に入りましたと、我が家に挨拶に来られました。いやそうか「みんなの党」はどんなふうになるのかなあと。彼は真面目な義情をして「私は渡辺喜美の下で働きますのでよろしくお願ひします、それで江田憲司もおります。」という話でして、これは新鮮でいなあとその時思いました。

私は自民党に飽き飽きしていて、それでは次は民主党だな、民主党に何とかして力になってやらなきやいかんかなと思つていた矢先、彼が政治屋は沢山いるのですね。要は世の中の動きがどうござりました。まあ、学校と云えば先がとらねばならないという気概で現場主義第一で奮闘しております。元はといえば三菱商事でほぼ一生の仕事は終えています。また、新たにサウジ石油化学の社長に就任して六年間、経営にタッチする結果になりました。経済のグローバル化に先駆けて文字通り国際派を自認し、今日に臨んできております。その後、家庭裁判の調停委員を努めたあと、そろそろ有閑の身と思っていたところ、是非やってくれと懇請されて理職についております。

私は鎌倉に住んでおりますので、選挙区には

のこだけを見ていてグレしていつて、自分の信念なき言動をするものばかりです。そうしたなかで彼のように純真にやってゆくのが「みんなの党」を支えるのだらうと、こう思つて彼に頭張つてもらはうと、こう思つております。

ところで私は今ご紹介がありましたように、教育の方で、学校法人の経営の方をまかされて、います。学校の中で二十以上の人が、今七千人ばかりいるのです。私どもの学校のグループの中にです。いづぞや学校で会があつた時に浅尾君の話をしたのです。「人間はグレしてはいけない、自分でこれだと思つたら、それに突き進むだけの根たがなければいけない」と。

そこで痛感することは、今の日本の若い人たちは競争心が無いということなのです。競争に打ち克つて行くといふ心構えを常に持つていないと、これからの世界で生きてゆけな

これは一方で教授、先生方にも申し上げております。今は研究、教育、地域貢献、そして学校運営、こつちの柱に理解を示す教授でなければ本学園に於いては必要ないと、こつちうはつきりとしたメッセージを出して、私は、我が大学では教授のこれからの新たな評価を導入するといふことであります。それでは評価の基準となる点数の割り振りは何かといひますと、教育に四十パーセント、研究に三十パーセント、地域貢献に二十パーセント、そして十パーセントは学校経営に理解を示す、運営に助力すると、これを以て百パーセントにするといふ考えで、新年度から一度に導入することにしてあります。

そつちう意味で教育は日本の将来を荷負うものであると、それは長い道のりであるかも知れませんが、先ず若い人から元気にならなければいけないといふことで熱いメッセージを送つて、学校経営と教育改革の旗印を掲げて、着

る人材というのは日本だけに縮まつてゐるのではなくて、世界に飛躍しても負けないような人間でなければいけないといふ問題意識に立たされてきています。我が学校の建学の精神について言及していくときに、こつちう視点に立つていくかに腐心するところですが、特色的に理工科大学のもので、すから技術系人間が中心なのです。従つてその根本理念を「技術者の育成を以て地域に貢献する」と云うのが建学の精神に於いてあります。わが学園においては、この建学の精神をしっかりと読む必要があるといふことを申し上げます、地域に貢献するのではあるが、それは地域にあつて、それは地域を世界に飛躍させる、いわゆる縮まつてゐるのではなくて、大きく育てると云うのが、わが学園に課せられた正に貢献である、従つてそういう人間にならなければいけないと、まあ常に云つてゐるところであります。

実な成果を挙げてきております。

「みんなの党」には、どうぞ若い人から大なる支持を得るよう努めて頂き、これからの飛躍をお願いしたいのです。自民党でもない、民主党でもない、大連立をやるのがどうしようが関係ありません。グレない政党、アジエンダを死力を以てコミットしてゆく以上は、それを貫いて欲しいと、このように思ひます。「みんなの党」のご健闘を祈つております。

渡辺講師 現代的課題の有意義なメッセージを「披露頂き、有難う御座います。そのことを踏まえて「みんなの党」は今、明治維新に匹敵する改革をやるかと考えております。明治維新は、二案内のように大政奉還、つまり政権交代だけでは成立しませんでした。まず武士の身分をなくしてしまふ。今で云つと「公務員制度

改革」ですね。これをやりました。藩籍奉還で
す。そして薩藩置県をやりました。我々は地域
主権型の道州制を考えております。

明治維新を完成させたのは教育改革であり
ました。正に江戸時代の教育を根本的に変える
恐れなく、日本に求められる日本の国家百年の
大計は、この教育改革にあると我々は考えてお
ります。若い人たちがリスクを問わなくなつて
きました。公務員志望がナンバーワンになつて
きました。結局こうした安定志向を求め、チ
ヤレシ精神がなくなつたのは、はつきり云つ
て日本の長期停滞とセットの話だと思います。

日本が平成時代に入つて「右肩下がり」の経
済」になつていくし、この十年間はデフレ経済
になつていきます。給料は下がり放して、格差は
拡大していく一方であります。こういう時に一
番しわ寄せが行くのは若者です。特に新卒なの
です。正規社員よりも非正規社員にしわ寄せが
行きます。非正規よりも、もっとしわ寄せがい

〇区であると、別に官僚が再就職してはいけな
いとは言ふ云つておりません。要は統制価格
のような植民地を沢山作つて再就職してゆく
のはけしからんと云つているだけなのです。だ
から我々は「出入り自由の日の丸官僚制度」を
作るうと、官から民へ、民から官へ、障壁を無
くせばいくらでも出来るようになるのです。こ
うゆうことを広めて行けば入試に失敗した、そ
れから就活がうまく行かなかつたと云う学生
だつて、努力すればいくらだつて、勉強すれば
浮ばれるのです。こういう制度を作つていきな
いと考えております。

「みんなの覚は教育の基本は、やはりおま
つないでグローバルの世界は良くないと思つ
ています。これは文化省の官僚と日教組の馴れ
合いの結果なのであつて、やはり自由社会とい
うのは競争がないといけません。同時に自由社
会の一番大切な倫理は、力の強い人がやりたい
放題のことをやつてはいけないと云うことな

くのが新卒です。その新卒の学生は必死です。
とにかく必死でやらないとフリーターになつ
てしまふと云う恐怖心でやつていきます。アクロ
的には、デフレギヤツを解消すれば、多分こ
の就職活動はとも楽になります。デフレから
脱却すれば、格差が拡大しません。失業者を少
なくするだけでなく、自殺者を五千人以上救う
ことができます。

日本には官尊民卑の伝統がいまだに激しい
ので、我々は公務員制度のなかで出入り自由の
公務員制度を作ることになっています。全員とは
云いません。例えば、企画立案をしようとする
公務員については日の丸官僚を自指せと、各省
のゼツケンを外せ、そして例えば三十過ぎて公
務の世界に入つてくると、こう云う奴が居ても
いいではないかと思ひます。何んで学校を出た
時に採用して、人材育成、天下りまで全部面倒
を見るのだと、リスクを自ら自分で取れと、要
するに市場価格で転職をしてゆくこと、これは

ので、困つた時には助け合ふと云う精神が社会
の隅々まで張り巡らされている必要があると思
ひます。ですから例えは縄跳びを子供に教え
る時に、縄跳びを十種類教えるとするれば、出来
の悪い子供と出来の悪い子供が当然いますから、出
来の悪い子供たちを先生が教えるのではなく、
お友だちが教えてやるということが大事だと
考えております。そして獨創性を持った子供を
育てる、これがないと日本の競争力は落ちる一
方だと思ひます。とにかく、スター選手が出て
来ると、寄つてたかかつて足を引つ張つてしまふ
のが日本の教育で、だからスター選手ばかり
になつてしまふのですね。スター選手ばかり
の社会が発展するのでしょうか、成長するでしょ
うか、競争力が付くのでしょうか。付くわけがあ
りません。だから我々はスター選手を育てると
いう、これは徹底してやるべきだと思つており
ます。

「質問のあつた憲法についても、全面改正で

臨んでおります。外国人の参政権については反対です。日本は開かれた国なので、中国系日本人がいてほしい、アメリカ系日本人がいてほしい、そうした意味ではどさんど日本人になつてもいいと思つております。日本人であればフルセットで参政権は行使できます。現にアメリカでは、アメリカ以外の国に生まれた人は大統領にはなれませんが、日本では例えばフィリップス生れの国会議員が既におります。この人は総理大臣になることができる国であります。そのように開かれた国が日本なのです。ですから是非日本人となつて欲しいと思ひます。参政権を行使する人は、是非日本人になつてからやつて下さい。

今回は佐々木明子さんに絡め取られたわけではありませんが、みなさんの昭和経済が大変に素晴らしい勉強会であると思つて改訂して判りました。伝統ある勉強会と呼んで頂いて改めて感謝を申し上げます。なかなか自分で

のニユースキヤスターをとめている時に、喜美先生とは取材を通じてお話をすることがありまして、今回お願いすることになりました。実は七時頃になつたら食事をせずに、渡辺先生はすぐに失礼させて頂くというお話であつたのですが、今八時でしたので大丈夫かなど、それだけ皆さまとの話が先生にとつても非常に躍動感溢れるものだったのだなあと思つております。

私がニユースキヤスターにおりまして、丁度リーマンショックを連日、日本に向けて放送して参りました。あそこでリーマンショックを目の当たりにして、転げ落ちてゆく経済を報道したと云うことは誰にも負けない体験であつたと、それをさせて頂いた会社には非常に感謝しております。

あの時にひとつ思つたことは、アメリカといふのは非常に謙譲な国民性をもつて誇りにしている国柄だといふことでした。特に私が居た

震いする様な状況でした。毎日の朝の報道番組でアメリカの株価を伝えるのですが、オシンの最中に、先程は一〇〇ドル位上がつていた株価が、多目を見放した瞬間に六〇〇ドルも下がつていたり、F R B が連日訳の解からないドル・スワップの協定を結んだとか、そうしたニュースがどんどん入つてくるのです。何を云つているのか判らない状況なのです。多分これを伝えないと日本の明日の株価ですとか、景気ですとかに影響が必ずあるだろうと思われれることが連日ありました

のはニユースキヤスターとして、その時は丁度二〇〇六年七月で、住宅バブルの最高潮の時でしたし、そこからアメリカ経済が音を立てて転げ落ちて行つたのですが、人びとは非常に強気で明るく、クリスマスと云えば皆んなが手に沢山のプレゼントを持つているような国でしたが、リーマンショックは、その前から住宅バブルが崩壊して、ガタガタ崩壊してゆくアメリカ経済に身震いする様な状況でした。

このような諸先輩の方々の席に改めてご挨拶できますことを光榮に存じます。テレビ東京でアナンサンデーをしております。久しぶりにお会いする方もございます。実はニユースキヤスターに三年半赴任しております。一月に戻つて参りました。今は、毎日夕方三時半から、生放送の経済報道番組を担当しております。たまたま夕方

佐々木明子 お食事中、申し訳ありません。ニユースキヤスターから 経済報道番組を担当

なとして頂ければと思ひます。司会者 明子さん久しぶりでですね。近況報告

ただくれたらと存じます。どうぞよろしくお願ひ致します。の人は良いよという人がいましたら、ご紹介したいと思ひます。お

ので、何とかそれを日本に伝えなければならぬ

いと云うのが、あの半年間の思いでした。

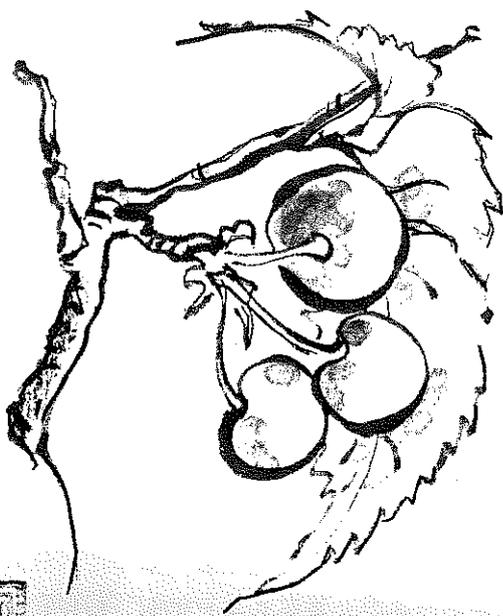
で、二月に毎日三万人、五万人規模のリスト
がアメリカで始まって、GEとかGMはもち
ろん破綻してしまいましたが、一週間どのく
らいリストされたかとカウントした時に、多
い時で十八万人ありました。それだけの人を一
気に切ることができるアメリカ経済と、そのあ
とで今こそ雇用は未だ戻ってはいませんが、
徹底的な保護主義ですね。GMの車を買いまし
ようと、オバマ大統領が云ったくらいで徹底し
て国を建て直すという意気込みがあつて、日本
に戻つて来た時に、そういう意味での国の強さ
というところに温度差を感じました。

日本というのは本当にマイルドで、みんなに
気を遣つていて、それにアメリカというのは自
国のためなら、どんどん踏みになるような政策
を出して来ました。そういうことで面方を見な
がら毎日オン・エアをさせて頂いております。

いらっしやるのかなと思つて、それでい
いと私は思つています。これからも今日の渡辺
党首のように、井浦理事も云つていますが、
平成の童馬と、今年一年はNHKの大河ドラマ
の童馬伝が支援されて大変な視聴率を得たわ
けですが、そうした意気込みが今日の渡辺喜美
代表には感じられました。大変良いお話だつた
と思つています。
今年一年、振り返つて思うに景気の悪い年で
したが、来年は素晴らしい年になつてもらいた
い。皆さんのご健康とお仕事の成功を祈念申
し上げて今日の昭和経済会の中締めとさせて
頂きます。

皆さんが働いている時間ですので、余り見る
ことが出来ないと思つていますが、最近録画機能
もすっかりしてきていますので、是非録画して
一度くらいは番組を見て頂ければと思います。
直しくお願い致します。

鈴木喜佐人、私が昭和経済会にお世話にな
つてから二十数年になりますが、この会の講師
として見える方々は沢山おられました。自民党
の方もいらつしやるし、民主党の方もいらつし
やるし、それから今日のように「みんなの党」
のように党代表の渡辺さんというように、いわ
ゆる一党一派に片寄らないで、いつもフレキシ
ブルに、その時その時にタイムリーな方を呼ん
でおられるなど感銘を覚えています。参加して
こられる聴講の皆さんも一党一派にこだわっ
ていない、常に先行きを考えながら、この方の
ご意見が素晴らしいと感銘を受けた方々を皆
さんが推しておられる。つまり普段は無党派で



作品 関根常雄

〔時局論壇〕

平均の概念 意味なさを

明治大学客員教授
高安 秀樹



ある「ベキ分布」だ。身近な例では、ガラスを
床に落とした際の破片の破片の大きさの分布、株や為
替などの市場価格の変位の大きさの分布など
が代表例である。

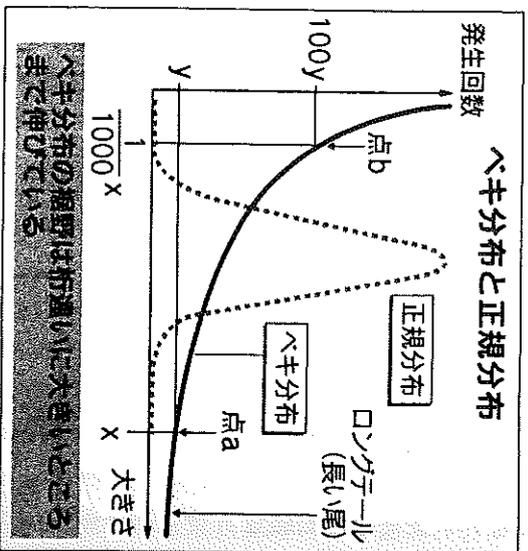
一回あたりの地震で発生する振動のエネルギーの
大きさを見積もり、多くの地震に対して、
どの程度の大きさの地震がどんな頻度で発生
したかを計測し、分布図を描く。すると、世界
中どの地域を観測しても、エネルギーの大き
さとその発生頻度には一定の法則性が確認で
きる。それは、あるひとつの地震を基準にする
と(図でいえば点a)、その地震よりエネルギー
1が千分の1の規模の地震の数は100倍多
い(点b)、という統計的な法則である。

このようにある基準から何分の1の大きさ
のもの数が何倍になる、という関係が成立す
る分布は、発生する確率とその値のベキ乗(累
乗、同じ数を何回か掛け合わせる)に比例
することが知られる。これがベキ分布である。

未体験の事象が連鎖

日本で最大の地震と大津波、そして、世界で
初めての複数原子炉の同時破綻による放射性
物質の拡散。前例のないことが次々と押し寄せ、
今、私たちは冷静な判断がしにくくなっている。
このようなきには、起きたことを科学的に分
析し、まず、基本的な立ち位置を定めるべきで
ある。

この発端の地震現象は、長い年月をかけて
地殻にたまったはずみのエネルギーが、瞬間的
に振動の形で放出される自然現象である。これ
は、地球内部の熱対流に起因する何万年という
時間の単位で動く地球の営みの一つで、人類に
とっては遠い将来も制御できる可能性はない。
一方で、この数十年で観測技術が進み、メカニ
ズムや特性はかなり解明されてきた。ここで注
目されるのは、解明された重要な特性の一つで



地震の大きさは通常マグニチュード(以下、
Mと表す)で測られる。Mの値は2大きくなる
とエネルギーが千倍になる。日本では、これま

でMが5程度の大地震はおよそ一年に100回程度発生している。地震の大きさと頻度の関係がベキ分布なら、Mが7程度の大地震は年に一回程度、Mが9程度の超巨大地震は100年に一度くらいの頻度で発生されることが推定される。

分布や確率の概念は、高校までの授業で勉強するが、ベキ分布は指導要領には入っておらず、名前を知る人は多くない。大学の授業で確率や統計の科目を選択しても、いわゆる釣り鐘（ベルヌイ型をした正規分布は詳しく勉強しても、ベキ分布に関してはほとんど触れられない。

だがベキ分布は地震だけでなく、数多くの自然現象や経済現象、社会現象で観測される非常に重要な分布で、この30年、統計物理学などの分野を中心に最先端の研究分野になっている。



が9の地震が一度発生すると、そのエネルギーはMが5の地震の千倍、Mが7の地震の10万倍なので、平均値は約10⁻¹になってしまふ。つまりたつたひとつの超巨大地震のサンプルを含むか含まないかで、平均値は100倍も変わらう。これがベキ分布の特異性である。

サンプルに依存せずに平均値が一定値に漸近する正規分布のような普通の分布では、理論的な研究が非常に整備され、保険によってリスクを管理する技術も発達している。一方、ベキ分布に従う災害では、過去のデータから平均的にリスクを推定するという常識的な科学の方針に、法自体に本質的な限界がある。残念ながら、この問題の深刻さはまだあまり広く認識されていない。実際、日本には地震保険があり、持ち家所有者の二、三割が加入している。ではその掛け金や保険料がどのように計算されているのかといえば、過去何十年かのデータに基づき、地域ごと、建物の種類ごとに、平均的な被害の

が、長い間、確率・統計の理論の主流から外れ、ほとんど教えられもしなかったのは、ベキ分布では、平均値や標準偏差といった最も基本的な統計量が意味をなさないからだ。例えば、地震のエネルギーの平均的な大きさを求めよ、といわれれば、与えられた観測期間の間に起きた全地震のエネルギーを足し合わせた量を地震の回数で割るだろう。だがこの平均値が現実にはあまり意味を持たない。観測期間を延ばると、その平均値が大きく変化してしまうからだ。

仮にMが5と7と9の地震だけで考えよう。ある十年間、日本近傍を観測すると、Mが5の地震はおよそ千回、Mが7の地震は十回発生する。一方、Mが9の地震は、一回起こるか起こらないかどちらかである。Mが9の地震が起こらなかつた場合、Mが7の地震はMが5の地震千個分のエネルギーでそれが十回発生しているので、Mが5の地震のエネルギーを1としたとき、平均値は約11になる。一方この十年でM身の回りにたたくさんの事例があるベキ分布

大きさを算定し、そこから平均的に決めている。こうした仕組みは、計算に使用したサンプル内の最大の地震より小さな地震に対しては有効である。だが先の例からもわかるように、Mが9の地震はたつたひとつで、平均値を百倍も変える威力があり、今回、それが現実のものとなった。

つまり、ベキ分布に従う災害では、過去に例のない規模の事例が発生すると、事前に決り決めておいた保険のような仕組みでは災害は担保できない。ナシム・タレグは著書「アラブ・スプリングで黒い白鳥が発見されたのを引き合いに、過去に起きたことがない事象が社会に大きな衝撃を与える事例を紹介した。巨大地震というまれな自然現象は、津波によって住民とともに多くの町を奪い、放射能汚染や電力不足、世界中の工場を止める部品不足など、想定外の連鎖を続けているのだ。



地震同様に金融市場の価格変動にもベキ分布の性質があり、保険の応用としてつくられてい

る金融派生商品も実は同様の本質的な困難がある。この問題が顕在化したのが二〇〇八年秋の金融危機であった。想定外の大変動として米リーマン・ブラザーズが倒産したのを引き金に、金融市場で信用不安が一気に広がる。そして、世界中の主要金融機関が連鎖的に倒産する可能性が語られ、株は暴落、そのまま第二次世界恐慌に突入するのでは、とすら懸念された。

この危機に直面して、前世紀の大恐慌の二の舞いを避けるため、主要国の政府は素早く半ば超法規的に金融市場に資金を投入した。返済資金が一時的に足りなくなっていた金融機関が中央銀行からお金を借りることで、約束どおりの支払いができるようになり、連鎖倒産は回避された。当初、中央銀行が注入金額を限定していた間は、なかなか金融市場の不安感がなくならなかったが、腹をすえて上限をなくして資金

公的なお金や善意の寄付金だけに頼らず、民間のお金を集めるような工夫も間もなく必要になる。私案だが、市町村の不動産を原資にした証券を発行するのはどうか。一定期間は転売に制約を付ける代わりに相続税を免除する。そうすれば復興プランが魅力的な地域ほど個人や金融機関などから投資資金が集まり、国債に頼る必要は減る。配当には現地の特産品や旅館の優待券を配布する、など夢も広がる。まずは知恵を出し合い、進むべき道を議論したい。

(専門は統計物理学。ソニーコンピュータサイエンス研究所シニアリサーチヤシ)

高子香樹

注入をすると決めた後、それだけで金融市場は一気に安定した。

中央銀行が事前の約束なしに金融業を救ったことに対しては、公的なお金を使ったとして不公平感もあるだろう。単なる将来への問題の先送りだ、次には国家の財政危機が待ち構えているという批判もある。だが、連鎖倒産によってそのまま恐慌に突入するというパニック的な最悪のシナリオを避けることができた、という点は評価すべきだ。

今回の大災害は、既存の科学と法と制度の限界をはるかに超えている。半ば恐怖感から、一時的に現実から逃避したいと考えたくなるかもしれない。しかし、いつまでも逃げ回る必要はない。現状をきちんと把握し、前例や常識にこだわらず、ある限りのモノとヒトとカネと知恵を出し合い、総力を挙げて前に進む。そうした基本的な方向性が共有できれば、事態を好転させることもできるはずだ。

「時局論壇」

一層の緩和でデフレ打破

エール大学教授
浜田 宏一



さきみると、その貨幣拡張の姿がわかる(グラフ1)。一方、それまで金融政策を緊縮的に行っていた日銀は、わが国ではサブプライム危機は起こらなかったと自慢した。そこまでは正しかったであろう。

しかし、変動相場制下では一国の金融拡張は当国の為替レートを切り下げ、貿易相手国の為替レートを切り上げる。自国の金融拡張は通常他国の景気を悪化させる。諸先進国のリーマン危機に対応した金融拡張により、円の実質実効為替レートは切り上げられ、輸出産業の競争条件のハートルを高くした。

日本国内で金融危機は起きなかったが、世界の為替市場は直結しているので、諸先進国の金融拡張の衝撃が円の独歩高という形で日本を直撃した。日銀が金融を緩めれば防げたにもかかわらず、バランスシートの拡大をみても日銀の対応は不十分だった。その結果、日本の鉱業

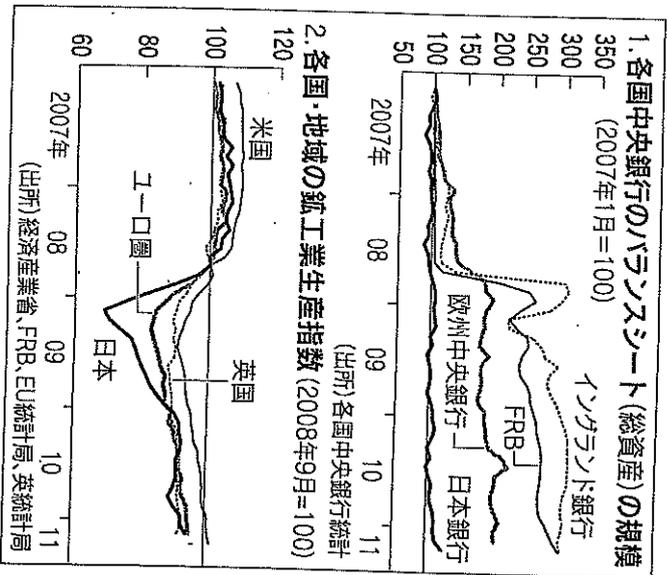
欧米への追随は不要

東日本大震災後の日本経済は、失われた供給力の回復を急いでいるが、それとともにデフレや円高に伴う需要不足に悩んでいる。初めに、このような需要不足がなぜ生じたのかをみておこう。

リーマン・ショック前には、不良貸し出しが含まれていて実際には価値のないサブプライムローン(信用力の低い個人向け住宅融資)を「金融工学」の名の下に合成した証券に価値があると考えられていた。リーマン危機は、こうした証券に価値がないことがわかったため起きた。皆が富と思っていたものが、まるでシンデレラのカボチャの馬車のように突如消えてしまった。

諸先進国の中央銀行は貨幣の増発、特に種々の資産を買い上げる「包括量的緩和」でこれに対処した。各中央銀行のバランスシートの大き

生産はリーマン危機以降激減する。鉱業生産変化率で測ると、日本はリーマン危機の中心地でなかったのに、危機の中心地であった英米より大きく生産低下した(グラフ2)



興味ある読者は「伝説の教授に学べ」本当の経済学がわかる本」(浜田宏一、若田部昌澄、勝間和代著)を参照されたい。

今も実質実効為替レートは円高で産業の足かせになり、鉱業生産指数はリーマン危機前よりかなり落ち込んでいる。日本経済は潜在成長率からかなり大幅な需給ギャップを抱えている。三菱UFJリサーチ&コンサルティングの片岡剛士主任研究員は、こうしたギャップが二〇兆円程度に達すると説明している。震災は、主に不十分な金融緩和のために過去五年間続いてきた需要不足が解消しないところに襲ってきた。震災は、生産供給能力の低下による個別商品のボトルネックを通じて価格上昇圧力になる一方で、資金面では非常に備えた貨幣需要や保険金支払い準備のための資金遺流を通して円建ての資金の需要を増やす。阪神大震災後には一ドル七十九円台の円高と

ないフリンチ(ただ食い)を実現できるように見える。普通そううまくいかないのは、貨幣供給の増加がインフレ傾向を助長し、国民の実質所得を減価させる事実上の課税となるからである。

現在なぜこのフリンチが可能なのかといえは、日銀の長年のいわばフレンチ志向の金融政策の結果、買いオペの効果が極めて限られているからである。長い間国民がデフレに苦しんだ後なので、拡張政策がすぐには将来の物価上昇期待を生まない。金融政策の有効性をそぐと

という面では問題だが、国債負担額を減らすには絶対の条件がそろっている。筆者も原則として山本議員の提案に賛成である。とはいえ、震災後の日本経済では個別商品の価格上昇が起る可能性はある。仮にそうならても、個別価格上昇が一般的な物価(生鮮食品を除くコア消費者物価指数CPI)の上昇に結び付かないようにしなければならぬ。その

なったし、今回の震災後には過去最高値の七十兆円台を記録した。円高基調はなお続いているのである。

しかも震災直後の市場統計指標、例えは百貨店売上高、外食、旅行の売り上げは大幅に減少し、需要不足のシグナルを発している。また新車販売台数は供給要因もあるが激減している。需要不足経済の基調も続いているのである。

自民党の山本幸三衆院議員は二〇兆円規模で復興のための国債を日銀に引き受けさせることを提案している。この提案は、今の需給ギャップを約二〇兆円と見て、復興の財源を結果的におれを刷って賄おうとするものである。同じことは、日銀が現存の政府国債を買いたペレシジョン(公開市場操作)することでも達成できる。つまり政府が利子を払わねばならぬ国債を発行せずに、無利子の貨幣で賄うわけだ。一石二鳥、まるで経済現象では普通許され

ためには、なるべく早く、例えはコアCPI二〜三%程度のインフレターゲットを設定して、デフレに対してだけでなくインフレへの歯止めも設けておけば安心である。今回の震災は、財政基盤の脆弱な政府が復興にあたるのが困難であることを示した。前述の国債の日銀引き受けでデフレを打破できれば、国の財政状態も自然増収で一息つき、消費税の引き上げ幅を圧縮できるかもしれない。

与野党の政治家が提唱するように、金融を一段と緩和しないまま消費税を引き上げるのは政策順序がまったく逆である。最悪の場合、税率と税収の間で逆U字型の関係となるラフなフー曲線が働いて、消費税そのものが減ってしまいかねない。そうでなくても税率上昇による経済活動の鈍化のために、所得税や法人税の減収が消費税の増収を帳消しにすることは、橋本龍太郎内閣のときのわずか二%の消費税上げでも経験した。それを今、時期を限って実施す

るのも、災害後の国民の苦しむ時期を選んで税負担をかけようとする時間順序のまったくの取り違えである。

消費税を上げても景気を悪化させずに済み、

しかも長期的には望ましい歳入歳出のバランスを回復しようとするには、国際通貨基金（IMF）が提言するように、消費税を毎年1%ずつ、例えば十年間上げていく政策を薦めたい。

課税による効果の低下をまったく避けることはできないが、その影響は漸進的となる。慶応大学の深尾光洋教授が強調するような、将来の増税を避けようとする国民の消費の前倒し効果も期待できる。

◇◇◇

さて、今シリエの問題意識は、各国が量の緩和と第二弾（QE2）などの非伝統的な金融政策から正常化し、金利政策の活用を復活しようとする環境下で、復興問題を抱える日本の金融政策のあり方を考えようというものである。

柔断かつ量的に不十分であったことを、経済の体温計が示している。日本の金融緩和は不十分であり、諸外国に合わせて緩和にブレーキをかける政策は震災後の日本経済に余分な負担をかける。変動制の下では協調介入に頼らなく

非伝統的な金融政策はゼロ金利という特別の環境下において必要となったものである。事態が安定してくれば、金利政策を正常に戻したという考え方が出てくるのが想像できる。また、実物経済に必要以上に介入したくないという米国では共和党系、そして伝統的な銀行家の意見が台頭してくる。

前述したように変動相場制の下では、米国の金融緩和は日本に景気収縮的な影響を及ぼす。仮に諸外国の金融包括緩和が一段落すれば、それに対応して日本も金融緩和姿勢を和らげてよいというのが、抽象的な答えとなる。

しかしデフレが継続し、円高が産産を苦しめていること自体、日銀や財務省の為替政策が優

ても、欧米との金融緩和の程度の違いで円高は防ぎ得るのである。日銀と財務省が、実質実効為替レートをリマン危機以前の状態（具体的には各自レートが1ドル110〜100円の水準）に近付けて、初めて日本経済の暁が見えるのではなからうか。

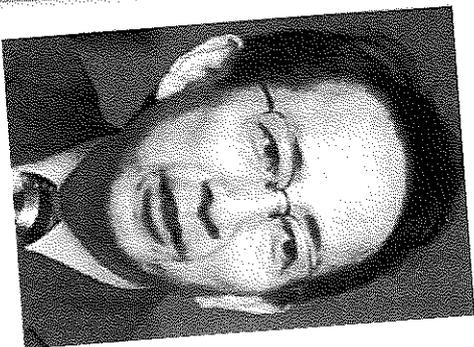
（エール大博士。元内閣府経済社会総合研究所所長）



「時局論壇」

復興へ政治の力結集を

朝日新聞本社主筆
若宮 啓文



大震災から五十日が過ぎて五月を迎え、復興へさあ元氣を出そうという時、国民がいらいらして見守る不安材料が二つある。福島第一原発、菅直人首相にまず問いたい。新設する復興担当大臣を誰にするか、決めてないのはなぜか。一九九五年の阪神大震災では三日後にペテラソの小里貞利氏が専任の対策相になって指揮をとった。首都が壊滅した一九三三年の関東大震災でも三週間後には復興院ができ、名高以後藤新平総裁が誕生する。学者中心でできた今度の復興構想会議の上には、実行力があり官僚も動かせる政治家が欠かせまい。

首相は三月、自民党の谷垣禎一総裁にその就任をもちかけた。事実上の大連立構想だが、失敗。一方で担当相の有力候補と自負した仙谷由人官房副長官の権限は逆に制約したままだ。重用される枝野官房長官との確執も伝えられる始末である。

問責決議で官房長官を追われた仙谷氏だが、もともと首相が「煙たい存在でも力があって自分に直言してくれる」と長官を迎えた人である。その後何があつたにせよ、震災直後の混乱のなか、官僚とのパイプも頼みとして格下の副長官で戻ってもらつたのなら、その力を使うのが自然だろう。

不満を募らせる仙谷氏も野党と「誓はずし」の大連立を策すくらいなら、職を賭して首相と向き合ふべきである。ただでさえ戦時にも似た危機にあつて政治の役割が大きいとき、内閣中樞で異常な権力ゲームをする時ではない。

官邸がこんなだから民主党内で昔おろしの動きが盛んなのも分かるが、刑事被告人の小沢一郎氏や逃走して首相を辞した鳩山由紀夫氏が旗を振るのはいかなものか。しかも、この危機にである。

野党の自民党には長く政権にあつて原発を推進してきた責任もある。連立に応じないのは

自由だが、参院での野党の多数乱用はもう許されない。谷垣総裁らが復興や財源をめぐつて大きな絵を描き、与野党の政策協議をリードする気概を示してこそ信頼回復の道に違いない。

いま、政治に必要なのも冷却水の投入である。苦しむ被災者や原発の避難民、そして復興を願う国民のため、みな頭を冷やして虚心になることだ。

首相には政権維持の執念だけでなく、身を捨て覚悟がある。膨れ上がった首相不信の中で与野党の全面協力を望むのなら、ここまでやたら退くという「工程表」を示す手もあろう。復興へ国民の力を集めようというとき、いかに政治の力を結集させるかが後世に問われている。

力ある訴え届けたい リスク覚悟し、冷静に

大阪朝日新聞の号外が「大混乱の東京」を伝える四枚の写真が大きく載せたのは、関東大震災の発生から三日たった一九三二(大正二十二年)九月四日。焼け落ちてしまった東京朝日新聞の本社から、福馬謙造記者が写真を抱えて大阪にたどり着いたのだ。日比谷公園で炎上する松

本楼をはじめ、首都の惨状が痛々しい。

号外の裏面は福馬記者の体験記で埋め尽くされた。がれきに遮られて回り道をし、橋の落ちた川を泳いで渡り、アタの積まれた貨物列車に乗り込み、豪雨のなか箱根の山中を徒歩で越え、と、食うや食わずの三日間。各地で見た遺体の山や、悲嘆に暮れる人々の様子を活写して

いて生々しい。マジオもなかつた時代のこた

通信の壊滅で東京から情報を得られない外国の新聞・通信社がこれに飛びついた。米国人ジャーナリストのノエル・ブッシュ氏が震災を題材に書いた「正午二分割」(早川書房)によると、この号外はシベリア経由で打電され、世界の新聞に載った。海外に大きな衝撃を与えた特報を可能にしたのは「一刻も早く事実を伝えたい」という記者の一念だった。

それから八十八年。三月十一日の大震災ではリアルな映像がそのまま世界へ伝わった。仙台市周辺で住宅や車を押し流し、空港が埋もれていく津波の様子が上空から伝えたNHKのテレビ中継は、多くの国々で同時に流されていたのだ。信じられないような時代の変化である。二十世紀に急激に進んだ科学文明のゆえに、だが、それゆえに被害の質も膨らんだ。電化が極度に進み、車社会にもどろどろりつかる生活

のせいである。極め付きは原発の事故で避難を強いられる人々の苦しみ。戦後日本の政策や人々の生きざまが様々に問われることになった。

少子高齢化という根本問題を抱えて将来展望が開けないままの日本が、さらに重たい課題を抱え込んだわけだが、これは大きな発想転換のチャンスでもある。政治を批判してばかりではすまない役割が、我々にも求められているのだ。

原発に頼らぬ社会づくりを急ぐため、自然エネルギーの開発などに二十一世紀の国運をかけるのは夢がある。東北再建を「日本立て直し」の推進力とし、次の大地震に備えるためにも東京から東北へ首都機能を分散させるべし。震災で見直された和の精神や海外の支援ムードを活用し、新たな国際協力へ旗を振ろうではないか。例えばそんなことが頭をよぎっている。

一つ反省を書いておこう。自民党による長期政権のよどみから脱して日本の民主主義を本物にするため、政権交代への期待を語り続けてきたことだ。その基本線が間違っていたとは思わないが、でき上がった民主党政権の実態には次々と期待を裏切られてきた。「想定外」とは言いたくないが、予想を大きく超えた不覚。日本政治に成熟と活力をもたらすにはどうしたらよいか、選挙制度を含めてもう一度「政治改革」のやり直しを求めていきたい。

電源別コスト検証が前提

京都大学教授
植田 和弘



〔時局論壇〕

原発の経済性に疑問

東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故は、エネルギー政策が前提にしていた

「神話」を打ち砕いた。原発の安全性と経済性については、その評価基準や評価体制を含めて根本的に再検討しなければならない。そして震災から取り取るべき教訓は、原発の技術的課題のみならず電力供給システム全般にかかわり、エネルギー安全保障や気候変動政策にも及ぶ。震災後のエネルギー政策はいかにあるべきか。今夏の電力不足への対処が急がれるが、事故の教訓を踏まえ、エネルギー政策転換の包括的枠組みを明示する必要がある。

福島第一原発の事故とその後の計画停電騒ぎの中で、電力が産業と生活にとって欠くべからざる社会基盤であることを再確認した。電力はその供給システムもあわせて、宇沢弘文氏が提唱する社会的共通資本そのものである。

ふと思うのは、今度の津波で歴史に残る決定的瞬間を撮ったカメラマンたちのことだ。被災地を訪ねた折に会ってきた。岩手県宮古市では膨れ上がった海が船や車を運んで堤防を一気に越えるのを、目の前の市役所四階から岩手朝日テレビの工藤歩さん(四十歳)が記録した。堤防の下を取材に走っている市長に大声で呼び戻され、命を拾った後の信じられない情景。あまりのことに泣きながらカメラを回し、いまま夢に出ては目が覚めるとい宮城県気仙沼市では東日本放送の千葉頭一さん(五十三歳)が道路の上で津波の到来を待ち構えた。そばで自宅が流されてしまったが、道ばたの階段を上りながら波打つ足下の濁流を撮り続けた。毎日新聞の手塚耕一郎さん(三十三歳)は給油に降りた仙台空港から間一髪飛び立った。

りの中、松林越しに襲ってきた津波に向けてシッターチャンス逃さなかった。どれも危険と隣り合わせの技だが、追真の事実を伝えようという記者魂が生きている。言論に求められるジャーナリズム精神も似ていないか。タイミングと焦点が肝心なうえ、リスクを覚悟しなければ訴えに力がない。無謀とは違う冷静さも大事だ。あえて他社の仕事を紹介したのは、激しい競争を自覚すればこそである。本来、この欄は「ザ・コラム」であり、今日は私の番だった。これからはこそ後輩の記者に譲って、私は別の形で随時筆をとっていきたい。

電力および供給システムを管理するに当たっては、発電段階のみを問題にするのではなく、発電のためのエネルギー源から電力の消費、そして発電に伴う廃棄物（放射性廃棄物や温暖化ガス）までのライフサイクル全体を検討対象にすべきである。エネルギー政策を環境政策や資源政策と統合的に考えなければならない。この根拠がここにある。

◇◇◇

一連の事態の中で浮かび上がったのは、電力多消費社会のもろさであった。電力の大量消費を身件にして電力供給能力を確保する方式は、地震国に大量の原発を建設しリスクを増大させた。エネルギー政策転換の方向性は、第一に節電・省エネルギーのメカニズムを経済社会にピルトインすることである。

出ず可能性がある。節電・省エネ型消費行為へ

の変更は節電所への投資なのである。

節電所の良いところは、発電所のような長い建設期間が不要で、明日からでも少量からでも稼動する点である。その際電気の過剰使用を促している規制・基準・設計・習慣を併せて見直すならば、その効果は大きくなる。節電所の建設には何をすればよいかを知ることが出発点であり、節電所を建設するノウハウを蓄積した知識基盤の構築がカギを握る。企業や市民に適切なインセンティブが付与されるならば、節電所への投資が爆発的に広がるであろう。

電力需給調整システムや電力以外のエネルギーを含めて地域エネルギーシステムを構築する方向性も欠かせない。情報通信技術と結合した次世代送電網（スマートグリッド）やいわゆるスマートコミュニケーションづくりを進めれば、電力需要の制御システムをきめ細かく柔軟に設計できるようになるので、料金システムと

まっている。耐乏という感覚ではなく、新しいライフスタイルの提示や、他者を思いやり電力を大切に使う倫理的消費という価値創造と結び付けて、電力負荷平準化（ピーク時需要の削減）に結実させる必要がある。これは追加的な電力供給能力の調達を回避できるという意味で、短期的にも長期的にも経済性を持つ。一種のインベションであり、新しいビジネスにも結びつく。

節電所の建設に投資するという発想が有効であろう。最初の提唱者エイモリー・ロビンス氏によれば、節電所は省エネ機器を購入することを通じて、消費してしまっただった電気を生み出し発電所の代わりになる（ペイター・アップ）ほかに「ネガワット」。節電により電気が足りなくなったのである。省エネ機器だけでなく、電力・エネルギー消費行為（ライフスタイル、ワークライフバランス、オフイス・工場の業務・操業形態など）の変更も多くの電気を生み出す。

運動して電力負荷平準化にも大きな力を発揮する。

将来は電力の消費者が電源を選択できるようになるし、現時点でも電力利用契約制度の設計を工夫すれば、節電へのインセンティブを大きくすることができる。節電メカニズムを経済社会に組み込むための制度的基盤づくりを急がねばならない。

◇◇◇

節電・省エネルギー型経済構造への転換は、気候変動政策と整合的である。しかし、福島第一原発の事故が与えた影響は深刻で、電力供給施設としての原発の安全性や信頼性が疑われることになった。二〇三〇年までに原発を十四基以上新増設するとしていたエネルギー基本計画は見直されるであろう。原子力発電で想定していた電力供給量を他の電源で代替する必要がある。世界的にみれば、風力・地熱・太陽・中小水

ライオンサイクルでみた電源別比較

	資源開発	発電過程	環境・地域との関係
化石燃料(石炭、石油、天然ガスなど)	油田開発に伴う環境破壊、海外依存	大規模発電の経済	環境汚染物質や温暖化を排出
再生可能エネルギー(太陽光、風力、バイオマス、地熱など)	潜在的な可能性、技術的課題	小規模分散の条件、地域制約による	土地集約的、自然の地味資源
原子力	海外依存、輸送過程のリスク	大規模発電の経済	放射性廃棄物、バツクエンドの不確実性

(出所)筆者作成

でも大阪大学の八田達夫招聘教授が「電力自由化の経済学」で指摘するように、制度設計によって働くメカニズムは異なる。

◇◇◇

エネルギー源としてのライオンサイクルの各段階における課題は様々である(表参照)。

再生可能エネルギーは分散型電源であり、町づくりと運動しやすい点が特徴である。震災は大規模電源が集中立地することのリスクを顕在化させた。リスク低減社会に向け、分散化ネットワーク電源への需要が高まっている。また、自然を発電用の地域資源につくり替えエネルギーの地産地消を可能にするので、発電所は町づくりの核となり、自然に適合した地域経済や雇用を生み出す可能性がある。小さな単位の取

価格づけが容易ではない要因も重要である。あろう。

の投資を促す制度的基盤としても機能するで

ない。これらの環境政策手段は節電・省エネでなく、電源間の公正な競争のためにも欠かせない。炭素税や排出量取引制度は温暖化ガス排出削減という環境政策上の目的だけ

る前提である。炭素税や排出量取引制度は温暖

因を価格に転嫁することは電源間競争における

問題を抱えており、政策的にそうしたマイナス要

原子力と化石燃料はバツクエンドに大きな課

力・バイオマス(生物資源)などの再生可能エネルギーによる発電が急増している。しかし同時に原発事故を受け化石燃料価格の上昇が予想されるように、当座を石炭・石油でしのぐという動きも出てこよう。

日本も今夏の電力不足への供給面の対策として、火力発電所の復旧やガスタービンの調達に依存している。短期的な電力不足対応では様々な発電技術を組み合わせて電力需要を賄うことになるが、中長期のエネルギー政策や気候変動政策と整合的に進めるといふ視点が欠かせない。

原子力に偏重する計画がつけられた理由の一つは、原子力発電の経済性にあつたが、原発の発電コストは過小評価されていた。放射性廃棄物処理などバツクエンド(後処理)の不確実性が十分考慮されていないし、原発のための巨額の財政支出が発電コストに組み入れられて

今後のエネルギー政策では、電源別の公正な競争を可能にする制度的枠組みづくりが不可欠である。この問題は電力会社の地域独占の問題に突き当たる。発電と送電を分離し、規模の経済が働く送電はインフラとして、小規模・分散型技術のインベションが期待される発電に競争を持ち込むことは一案である。その場合に

立命館大学の倉賢一教授の「再生可能エネルギー」の政治経済学によれば、財政支出も含めて発電に要する総費用を推計すると、原子力発電は高価な電源になる。原子力発電の経済性は巨額の財政支出による下支えがあつて初めて成り立つもので、国家によりつくられた「経済性」といわざるを得ない。国民が得られるゆえんである。特定の発電を支援する財政支出についてはもう一つ、様々な発電技術の費用化の可能性が出てきているのにもかわらず、電源相互間の競争をゆがめているという問題もある。

り組みを可能にする制度的枠組みが求められ

節電所と同様に、これらの普及を促進するに
は投資家を増やす必要があり、投資家の判断を
ゆがめない市場の基盤の整備やエネルギー政
策の分権化が不可欠であろう。

電力の利用と供給システムの制度改革が求
められているが、それは基本理念を明確にし具
体的な制度設計に踏み込むものでなければな
らない。国民的討議を必要とするものであり、
従来のエネルギー政策を決めてきた政治過程
の改革をも促すことになろう。

(経済学博士。工学博士。専門は環境経済学)

人生の基盤が 揺るがされる時

「声なき者の友」の輪・代表
牧師 神田英輔

これは、玉川神の教会における日曜日の礼拝
説教を文章にしたものです。 佐々木誠吾



皆さんお早うございます。今朝は、この地上
に神の国がやってくるということを聖書の中
で、イエス・キリストが約束しておられますの
で、「神の御国を来たせたまえ」というタイ
トルで人と社会の変革、についてお話しした
ます。

大震災発生

皆さんご存知の通り今年三月十一日、巨大地
震が発生しました。三陸沖、マグニチュード
九・〇というとてもない大きな地震でした。
これは私が福島県小名浜で撮った写真ですが、
見る陰もなく、殺伐とした瓦礫です。今回の大
震災ではこのような状態が岩手、宮城、福島と
五百キロ以上も続いているのです。そこには全
てのものを失った多くの方々がおおいでになり
ます。大震災から三カ月たっても死者、行方不
明者、合わせて二万五千人近い状態、未だに約
十万人の方々が二千五百か所の避難所で避難

植田和弘

生活を続けておられます。

二日前、私は仙台のある中学校・高校でお話しさせて頂きましたが、生徒たちの中には家族や友達を失なった人が沢山おいでになりました。そうした方々を覚えて、残された方々に慰めがあるように、黙祷をしたいと思います。

*

「神さま、私たちは千年に一度といわれるような大きな震災に出逢いました。私たちの心のなかには愛の神が何故こんなことを・・・と云う思いもございません。多くの方々が犠牲になつたことを思いますとき、いても立ってもいられない気持ちになります。しかし反面、私たちが知っています。この大震災も神の栄光が表わされるために行なわれたと云うことを。神さま、この多くの方の犠牲を私たちが無駄にすることなないようにお助け下さい。イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン」。

福島第一原発においては配管の亀裂などが起き冷却剤が喪失され、炉心融解を起こし、さらに巨大な津波も襲ってきて大きな被害が起きました。福島原発一号機、二号機、そして三号機、四号機の順番で水素爆発が起りました。三月十一日の午後七時三分には、原子力緊急事態宣言が出されました。放射性物質が拡散を始めたからです。

二時間後には半径三キロ圏の地域の住民に避難命令が出されました。十キロ圏の人には屋内に避難するように、それから八時間後には避難区域は十キロ圏に拡大されました。私の友人たちが何人もこの中に住んでいます。二時間ぐらいで帰れるからバスに乗って下さい」と云われて、お財布も何も持ち返さないまま、みんなバスに乗せられてそれきりだったのです。現在も未だに戻れないままです。そして十三時前後には、これが二十キロ圏内に拡大されました。そして十五日には、二十キロ圏の住民に屋内避

難が指示されました。原発事故のために避難しなければならなかった方々の数は二十万人に上っています。

現代のバベルの塔

福島県双葉町に掲げられている横断看板があります。「原子力 明るい未来のエネルギー」、「原子力、正しい理解で豊かな暮らし。皮肉なものです。今こはゴーストタウンになっていくのです。家も、車も全てがそのまま残っているのですが、放射能汚染のために人が近付けません。

私はこれを見ました時、旧約聖書に書かれている「バベルの塔」のことを思い出したのです。人間が神のようになれると思いついて作った非常に高い塔の話です。この試みを神さまは嫌われたのです。旧約聖書によると、神がこのバベルの塔を破壊し世界中に人々を散らされた、それまで同じ言葉を使っていたのに、この

時から言語がばらばらになり、お互いがお互いを理解できなくなつたと語っているのです。科学やテクノロジーさえあれば、神なんかなくとも人類に幸福がもたらされると思つて築いてきた現代の「バベルの塔」、これが夢のエネルギーと云われた原子力ではないでしょうか。「人のいのち」よりも、科学、テクノロジー、お金、力、そんなものが強調される・・・これが現代のバベルの塔ではないでしょうか。人類に豊かさをもたらす安全なエネルギーであるはずだった原発・・・これが今、見事に崩壊したのです。

古代ローマ帝国からの教訓

私たちは原発で被災なされた「声なき方々」に寄り添うことを願つて活動地を福島に決定しました。福島に「神の国」がやってくることを期待しています。五百キロ以上に及ぶ被災地はどこで活動させていただいたら良いのかを

祈りながら決定しようとした際、私の脳裏に浮

かんだ一冊の本があります。

この本はクリスチャンを嫌っていた社会学者が一世紀から二世紀にかけてローマ帝国でキリスト教がなぜあんな勢いで伸びたのかを分析したものです。当時、キリスト教会は迫害されており、クリスチャンだと判ったら捕えられて、ローマのコロシアムで火あぶり、またライオンの餌食にされていた時代です。このような状態にあつたにもかかわらず、何故初代教会が爆発的に伸びたか・・・著者はこの原因を当時大流行押した天然痘にあつたと結論づけています。この絵は「グリエーデル」という画家が描いた「死の勝利」と題が付けられているものですが、西暦一六五年、ローマのアウレリアス皇帝の時代にローマ帝国で天然痘が大流行した時の状況を描いたものです。天然痘のため十五年間でローマ市民の三分の一が亡くなつたと言われています。天然痘の猛威は美にす

さましいものだったようです。当時、この天然痘の患者を見るべきローマの医者たち自身、天然痘に感染することを恐れてローマを逃げ出していききました。ローマ市民も家族が天然痘に罹つたら、この人たちを外に捨てて自分たちで逃げて行つたというのです。街中は天然痘の患者で溢れました。その時にクリスチャンたちは何をしたのかという記録が残っているのです。復活の信仰と希望を持ってクリスチャンたちは「私たちは、例え死んでも生きる」という確信を持ち、「隣り人を愛しなさい」というイエ

スさまの命令をしっかりと心に留めて生きてきたというのです。私たちがこの天然痘の患者たちの隣り人になるべきだと考えて彼らは街に出ていったのです。八パーセント以上の確率で自分が天然痘に感染するということを知りながらです。結果、沢山の天然痘の患者が助かつていきました。天然痘による脱水症状を起して死ぬ人が多かつたようで、多くが水を飲ま

です。医者だけでなく、多くの人たちが福島県から避難しているのです。キリスト教会の牧師さえも避難するという状況の中で、私たちが古代ローマで起つたあのことを思い出させてくれました。この結果、私たちが福島県に入つて、「声なき方々」の友になり寄り添わせていただくべきであると確信して、今、福島県で活動させて頂いています。

いま問われている価値観

このような支援活動に携わるなかで、私たちに問われていることがあると考えさせられています。これまで私たちが持ってきた「価値観」や「生き方」は、これで良かったのかというところが今問われているような気がいたします。弱者の犠牲で自分だけが豊かになること、自分が豊かになるため「自分が豊かになるため」という価値観です。自分たちが豊かになるためだつたら弱い人たちは犠牲になつても仕方がない。こうした生き方をしてきたのではない

せておけるだけで助かつたようです。クリスチャンたちの手厚い看護のお蔭で、この方々は治つていったのです。当り前のこのように、この人たちはクリスチャンになつていったので、これがあの迫害の時代にあつてキリスト教が爆発的に伸びていって、そのうちにローマ帝国がキリスト教を国教として認めざるを得なくなつた大きな理由だつたと云うことを、ロドニー・スタークという人はこの本のなかで書いています。彼はキリスト教嫌いだつた人です。何故教会がこんなに伸びたのかというところを社会学的に分析して、キリスト教を攻撃しようという意図があつたということです。しかし彼がこの本を書き上げた時、彼はイエスキリストの愛に抵抗できなくなつて今はクリスチャンになつています。

今回原発事故と放射性物質の拡散が福島で起つたために、例えば福島県立医大の医者、看護師の多くが福島県から避難して行つたの

す。

神の国

それでは、イエスキマがこの世に遣わされた理由を見てみましょう。「他の国々にも、どうして神の国の福音を述べ伝えなければなりません。私はそのために遣わされたのですから」と言われました。イエスキマにとっての福音とは何だったのでしょうか。「神の国」の福音です。イエスキマの最初のメッセージは何だったのでしょうか。「悔い改めなさい。天のみ国が近づいたから」というものでした。この福音が近づいたから、福音書を書いたワタイはユダヤ人を対象にしてこの福音書を書いていきます。ユダヤ人は「神」という言葉を使いません。代りに「天」という言葉を使いました。ですからワタイが「天のみ国」という時には、「神の国」と言っているのと同じなのです。神の国が近付いた。だから悔い改めなさい。これがイエスキマの最初の

メッセージでした。山上の垂訓で、「これらの貧しいものは幸いです。天のみ国は、その人のものだ」とイエスキマは言われました。十二使徒をお遣しになる時、ただあなたの方が行って伝道して来なさいな、とはお仰らなかつたのです。イエスキマは何と言われたのでしょうか。「行って天のみ国が近づいた」と宣言伝えなさいと、こう言われたのです。メッセージの内容まできちんと与えた上で弟子たちを遣わされたのです。その後、イエスキマは十字架にかかり、そして死なれました。そして三日目に復活されました。復活後、四十日間、この地で一番大切なこと、これだけは決して忘れてくれるなよということイエスキマはお語りになつたはず。何をお語りになつたのでしょうか。こう書いてあります。「イエスは苦しみを受けたのち四十日間彼らに現われて」・・・何のことを語られましたでしょうか。イエスキマは「神の国」のことを語り、教

とが見えてきます。

「神の国」の到来

私はこれまでいろいろな牧師に聞いたのですが、私自身を含めてあまり「神の国」についての説教をしていないということに気がかきました。本当に悔い改めをさせられました。パウロの宣教を見てみましょう。「それからパウロは会堂に入り三ヶ月の間、神の国について論じた。「ピリポリ宣教もそうですね。「しかしピリポリが神の国とイエス・キリストの御名について述べるのを信じた彼らは、男も女もバプテスマを受けた」。イエスキマが神の国と

思います。

それでは、「神の国」とは何でしょうか。その答が判らなければ、「神の国」を求めなさいと云われても、求めるものが何であるか分からないわけですから求めようもありません。多くのクリスチャンが何のために教会生活を送っているのか分からない理由がここにありそうです。それでは「神の国」とは何でしょう。皆さんは永いこと教会に来ていらっしゃると思います。あなたが求めてきた神の国とは何ですか。私はこれを求めてきました、と一言で表現でし

方がおられますか？実は私自身、二つの神学校で学び、神の国に関する本を何冊も読んだのですが良く判りませんでした。

「神の国」に関する皆さんの理解を助ける為に、少し脱線してみましよう。皆さんはほとんどの方が日本人ですね。日本に住んでいらつしやいますね。では「日本」と云う国、日本とは何でしょうか。こゝ聞かれたらどう答えられますか。日本とはこゝゆうものです。これが日本ですと、両方に云い替えがきくような言葉で日本を定義してみても下さい。どなたかいらつしやいますか。さて日本とは何でしょう。日本人が住んでいるところと、今誰かが云われました。私は来月アメリカに行きます。が、シカゴなどには結構日本人が住んでいますね。カルフォルニアにも。あそこは全部日本でしょうか。違いますね。日本の心が生きているところ、なるほど。このように考えると案外難しいものですね。この質問に対して大体真つ先に出てくる答え

が、「日本」と云うのは北海道、本州、四国、九州、沖縄・・・これが日本ですという答が結構多いのです。皆さんもそう思われるでしょう？確かにそうかも知れません。では私は立川に住んでいます。うちの近くに横田基地という米国空軍の基地があります。あれは日本ですかね。あそこへ近付きますと鉄条網が張つてあるのです。ここから先へ入つてはいけなと書いてあるのです。あそこは日本なのですかね、米

国なのですかね。あの中に無断で入ると罰せられるのです。あの基地の中はアメリカなのです。すると日本とは何？ということになります。ワシントンD.Cにある日本大使館、あれはどうでしょう。あそこは日本なのです。そうすると、答えが見えてきます。日本というのは日本の主権が及ぶところ、これが日本なのです。日本國憲法が通用するところ、これが日本なので、ですから日本とは北海道、本州、四国、九州、沖縄といつている人は、神の国とは何です

かと聞かれると雲の上の何かふわつとした所があつてそこが「神の国」で、死んだらそこに行くんだと考へてしまつたのです。皆さん、そうでなかつたですか。神の国と云うのはさうではありません。

「神の国」と云うのは、実は神の主権が100%及んでいる所、これが神の国なのです。神のみ目が完全に行われるところ、そこが神の国なのです。ですから、もし皆さんの中で神のみ目が百パーセント行われ、神の主権が皆さんの中で百パーセント及んだら、あなたの中に神の国は実現するのです。この玉川神の教会のなかに神の国は実現するのです。みこころが百パーセントこの東京で行われるようになつたら、この東京に神の国は実現するのです。

神の国というのは新約聖書を調べてみますと、九十回出てきます。神の国には三つの側面があります。先ず、第一は神の国の「未来性」があるのです。イエスキリストが再臨されるときに

この神の国は百パーセント完全な形でこの地に実現します。その時の姿が黙示録に記されています。「また私は新しい天と、新しい地を見ました。神は彼らと共に住み、彼らはその民となる。又神自身も彼らと共に居られて、もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら以前のものがもはや過ぎ去つたからである。もはや呪われるものは何もない。神と小羊とのみ業が都のなかにあつて、その僕たちは神に仕え、神のみ顔を仰ぎみる」。これですね。これは百パーセント完全な形で神の国の実現した姿をヨハネが書いています。

でもイエスキリストも言われました。神の国はあなたの方の所に来て、神の国は未来性だけでなく、神の国は既に来たという「過去性」もあります。今から二千年前にイエスキリストがこの地上にお生まれになつて、イエスキリストが神のみこころが百パーセント実現されましたよね。そのイエスキリストの中に、神の国が

ながしかの食料を積んで、このアマヤ村に出掛けて行かせて頂いたのです。行ってみたらほとんどもない状態でした。村人の穀物入れは全部空っぽ。何も入っていません。蜘蛛の巣が張っていました。と云うことは一ヶ月以上、誰も食事をしていないということです。早速、緊急の食料配給を始めさせて頂いたのです。

一度目に、この村に行つたのは、それから五年後のことです、一九九〇年のことでした。五年間、緊急援助から自立のためのお助けをさせて頂いて、この村がどう変わったのか視察に行つたのです。私が村を視察して歩いていた時に、向うから一人の老人が若者に支えられながら、よろよろして私の方に来られたのです。私が立ち止まったら、その老人も立ち止まって、じつと私の顔を見ていたかと思つていたら、「あんただ、五年前にうちの村に来てくれた人だよね。」と言われました。実は、この老人は五年前のアマヤ村の村長さんだったのです。(続く)

守っているあのハズスの門、私たちはどんでん打ち破っていくのだ。これが判つた時、私の信仰生活は變つたのです。これが神の国の「現在性」なのです。私たちのまわりにあるたくさん人のハズスの門を打ち破っていく、そして神の国がどんでん広がり、実現していく。ですから、神の国と云うのは、実現なさるのは神さま御自身です。私たちが実現させるものではありません。そのために神さまが、キリスト者、皆さんや私を「キリストの大使」として遣わしておられるのです。そしてキリストの大使を選び整えて、派遣するために教会を建てておられるのです。教会と云うのは神の国の大使館です。皆さんや私は、キリストの大使なのです。名刺にお書きになったらどうですか。キリストの大使、いいですね。神さまの期待はあなたにかかっているのです。神の国が実現したと感ぜさせられたその一例を今日、お話ししたいと思います。

七月講演会

日時

七月中旬

講師

NHK 科学文化部
記者 山崎 淑行 氏

演題

凄絶 大震災と原発事故
危機に立つ日本

会場

東京八重洲富士屋ホテル

エチオピアに実現した神の国
私が長いあいだ、働かせて頂いたアフリカのエチオピアの話をさせて頂きたいと思つています。一九八五年、ピューリッツァー賞という報道写真家で一番名譽ある賞を受けた「禿鷹と少女」というタイトルが付いていた写真があります。この写真にあるようにあの当時のエチオピアは言葉に表現できないくらい悲惨な状態でした。がりがり瘦せた牛を禿鷹が襲つている姿を見ました。禿鷹は同じように人間をも襲つていたのです。

この年に私はエチオピアに行っていました。エネモという村を拠点にして緊急の食料援助を行つていたので、そのキャンプにある日、シヨワ州のアマヤ村と云う所から一人の青年がフラフラになってやつて来られました。「うちの村が大変なんだ。助けてくれ」と言っているので、事情を聞いてみると、物凄く大変な様子だったので、とりあえず彼をトラックに乗せて、

わが回想記

早稲田大学名誉教授
堀江 忠男

独走首相と腰抜け首相

(一九八二年一月五日記)

昭和十四年(一九三九)年の正月五日に平沼騏一郎内閣が誕生した。彼は司法畑出身、検事総長を勤めた官僚で、国本社という右翼結社の總裁であった。首相の座につくと二月九日には国民精神総動員強化方策を決定、七月八日には国民徴用令を公布、アッシュ化と戦争への途を突っ走った。

その点では正直だった。正直すぎ、八月十三日に独り不可侵条約が締結されたときは度々を失い、二十八日に「欧州情勢は複雑怪奇」だ

と声明して内閣総辞職をした。

ヒトラーとスターリンは、一週間後に迫ったドイツのポーランド侵入を控えて、欧州分割の秘密協定を同時に締結していた。そして、予定どおり、ポーランドを分け取りしたのだ。彼らは平沼の間抜けぶりを笑っていたに違いない。

今年の正月五日、鈴木首相は上まげんである。平沼のようなバカ正直とちがひ、「和」の政治と称して、話をボカし、スリ変えるのがお家の芸だ。昨年末に定まった来年度政府予算案は「昭和三十年以来の超緊縮だ」と語って、得意なのだろう。

だが、国民の眼からみれば約束違反だらけである。「政治生命をかけた」はずの行革は腰くだけ、「増税なき財政再建」といながら、所得税の調整減税の五年間連続見送りで、実質増税を押しつけ、「活力ある福祉社会の実現」をうたいながら防衛予算だけを突出させた。「和」の政治とは、自民党内多数と米国筋との「和」

で、国民にはウソをついてもかまわぬという姿勢だ。

現在の内外情勢は、複雑怪奇ではないが、複雑多難であることはたしかだ。わが国の景気は、伸び率が思ったほどでないという程度だが、他の先進資本主義諸国では深刻だ。OECD諸国も軒並みスタグフレーションに苦しみ、ポラント、アフリカ、アジアの状況悪化で、東西の空気が険しくなるばかり…。

こういう国際環境のなかで、わが国だけが武力なき繁栄と福祉を楽しんでいられるわけはない。目標としては、国内的には、低成長、高齢化時代にそなえて、堅実、簡素な生活様式に切りかえ、国際的には、応分の防衛義務を果たしながら、経済協力に重点を置き、世界の平和と民主化に貢献することを心がけるべきだろう。

現在の日本の最高責任者は、こういう方向で国民のコンセンサスを待って誠実に政治を進めるべきではないか。平沼首相のような危険で間の

抜けた独走も困るが、小利口に繩抜けの曲芸を演じつつ、いつの間にか国民から離れて、どこか寄りに独走されてはかなわない。

蘭子の心情

ラジコ岩本

(采国ジャーナリスト)

日本の若者へ

午前三時過ぎ、T女史が電話をかけてきた。「ごめん！こんな時間に電話して」と早口だ。「でもまだ起きて原稿でも書いているかもよ思っ……是非書いてほしいコトを一刻も早くあなたに知らせたくて！」

「だった今、日本の妹から『姉ちゃん、日本の若者が変わった！』と電話があった。『姉ちゃん、高校生が、僕らの同胞を助けねばど、カンパしたり吹き出しでお握りを届けたり、凄く活躍してんや！若者が立ち上がった！姉ちゃん、若者をバカにしたらあかんよ！』と言はんや。私それを聞いた時、涙が出て……」と、T

女史の声が突然透切れがらとなり、電話の向うで胸を詰まらせ、落涙する彼女の様子が手に取るように伝わってきて、私の胸も込み上げた。「T女史も妹さんも八〇代。満洲で終戦を迎え難事を耐えて帰国し、戦後の祖国の復興に尽くした世代の人達だ。T女史は長く新聞記者として活躍してきた女傑で、かくしゃくたる精神の持ち主。アメリカを仕事場として生きて来た年の数が彼女より些が長い私は、話題によっては先輩にバシバシ反論することがある。そういう時、自分の意見を述べないが、「そういう見方もあるわね」と、ちゃんと聞く耳は持っている。しかしきつぱりと彼女が「解りました！」と言う時は、いざさか癪に障った時らしい、と気付いて私も反省する、といった人間関係。

だから、この真夜中の電話で、彼女が声を詰まらせた時、彼女の祖国日本に抱く想いの深さを垣間見た気がして、私ははっとした。

日本は大丈夫

未曾有といえる今回の大地震、そして津波のニュースを伝える米TVのアンカーたちの表情に、単なる痛々しさだけでなく、「哀しみ」を感じるのは気のせいだろうか？ 温厚で思慮深く、平和で優しく、真心込めてもの作りに励み、我々をその繊細な美的感覚で感動させてきた「日本人」にこの目を覆う天災とは……という彼らの心の声とその表情に哀しみを漂わせていると感ずるのは、私の思い過ぎだろうか？

私のアメリカ人の知人友人は、私と顔を合わせる度に、「あなたの家族は大丈夫か？ 元氣か？」とたづねる。そして教人は「大丈夫。日本は必ず復興する……瞬く間に、ね」と付け加える。

日本政府は別として、「日本人」に関する賞賛の声が高まっている。この様な大惨事でも暴動とならず、秩序があり、思いやり深く、助

け合う日本人の姿に、「我々はモラル市民の日本人に学ぶコトが多い」という声も聞かれる。私も「日本は大丈夫」と信じている。これを機会に、私達日本人が「当たり前のコト」として実践している「人の道」(勤勉、思いやり、秩序、和を大事にする生き方)が世界の人々に広まり、世の中に良い影響をもたらすであらう。これも、信じて疑わない。

でもしかし、何という高い代償を課されたことか。亡くなられた人達とその遺族の方々、そして被惨された人々のことを思うと、胸が潰れる。三月二十三日のNew York Timesの一面トピアに載った日本の小学校の卒業写真。目を泣き腫らし、涙を顎からしたり落としたりながら、懸命にこらえている男子学生の姿……

それを見た途端、涙が滂沱と溢れ、止まらなくなつた。

物事、難しいことはない

井浦 康之

ときどき出る一発をまぐれと思わず、自分の力だと考えれば難間にも立ち向かえる

数年前、ある研修の懇談会でゴルフコンペに参加したときに、空心の一打でもいうべきショットを放ったことがある。私はドライバリの飛距離がだいたい一八〇ヤードくらいなのだ。それがなんと軽く二三〇を超えていた。クラブを替えたわけではない。ふだん使っているものをそのときも使った。いつもと同じように振り抜いたら、ボールが見えなくなってしまう。まっすぐ飛んだと思っただのに、OBだ

ったのかと、最初は思った。しかし私のボールは、思いがけない距離を飛んで、フェアウェイに止まっていた。ゴルフを始めて十数年たっているが、あんなに飛ばせたことはない。後にも先にもたった一回のドラゴン賞である。

また別のときに、今度は三番ウッドで会心の当たりがでた。このクラブだと、普通は約一六〇ヤードしか飛ばないのに、その日、ボールは一九五も飛んで、グリーンに乗った。滅多に打てないスリーショットである。そのときだけ特別な理由があったわけではないのに、普段の力以上のものが出せた。これら二つのショットの感激は、今でも忘れられないものである。そしてまた、これが大事なことだが、そんな素晴らしいショットが打てたことが、私にとって大いなる自信になったのである。ゴルフはもろんなこと、困ったことがあったとき、「俺にハスリーショットが打てたじゃないか」と、自分を励ますのだ。すると焦りが遠のき、力が

湧いてくる。

実際のところは、単なるまぐれにすぎなかったかもしれない。プロ野球で、ピッチャーがホームランを打つことがたまにあるが、これなどは多くの場合、渾身の力を込めて振ったバットが、ボールの縫い目にたまたままっすぐ当たったことが理由だという。野球では、ボールの縫い目にバットが当たると、よく飛ぶらしいのである。

ていけばいい。子どものころの思ひ出でもいい。だれでも一度は、周りをあっと言わせた経験があるはずである。困難にぶつかつたら、そのことを思い出して欲しい。あのとときだって、できないと思っていたのにできたじゃないか。それを思い出して、尻込みせずに、まず一ベースの可能性を見つけておくことである。

一ベースの可能性があるとすることは、一〇〇ベースに近づけるといふことなのだ。そうして少しずつ小さな成功を積み重ねていけば、自信が生まれ、かならず大きな成功をもたらすだろう。

発想転換のキーワードが、
困難を楽しみに変える

大手証券会社だった山一證券がなくなっていくときのドキュメンタリーを、テレビで見た。

だのである。そんなショットが十年に一回しか打てないものだとして、明日からはそれを五年に一回打てるように努力する。そのときは三年に一回…という具合に、自分の力を信じて確率を高め

関西の方の支店長が、顧客に閉店の挨拶に回っている。なかには、罵声を浴びせる商店主もいる。ねちねちと嫌みを言う女性もいる。廃業は支店長自身の責任ではないのに、つくづく気の毒な光景であった。

私も営業マン時代、苦情処理に奔走していたころがあり、ドキュメンタリーを見ていてそのころのことを思い出した。営業は直接顧客と顔を含ませる仕事だから、文句を言われるのもまた営業の宿命である。考えてみれば、品物を作ったのは営業ではないのに、なぜ怒らなければならぬのか。理不尽な話ではある。

私は苦情処理に行くとき、いつも肝に銘じてキークードを持っていた。「殺されることはなだらう」である。戦国時代のように、首を差し出せと言われるなら、絶対に苦情処理などに行きはしない。しかし、殺されることはもちろん、殴られることだってありえない。先方は口で文句を言っただけ。

全部受け止めて、満足させるのである。そうすると、前よりもつながりが強固になって信頼関係を築くことができる。

新人の営業マンは、苦情処理をとてもいやがる。その気持ちはわからないでもないが、それでは成長できないと思う。若い人は、困難に対する免疫がなくて、すぐにその手前で立ち止まってしまうように見える。逃避するのである。どんなに怒っている顧客でも、こちらを殺したりはしない。まず、そのように発想を養えて余裕を持つこと。そして、洗面器になりきって話を聞けばいい。嫌な顔をして行けば、「なんだ、その顔は」となる。落ち着いて、誠意を持った洗面器になり、話をしっかり聞く。それができれば、大丈夫である。

難問に見えても、黒、白、灰色の三つに分けると単純化できる

そう言えば、ちっとも苦ではなかった。洗面器になったつもりで、先方がぶちまけるものを全部受け止めてやるうと思つた。そうして、全部吐き出してもらうと、先方の怒りもほとんど収まる。こちらは、先方にも誤解や勘違いがあるとかわかってくる。そこで、「本当に申し訳ございませんでした」と、詫びたうえで、その誤解をほぐす。もちろん、こちらの落ち度は認めないのである。

先方は言いたく言つたから、案外、こちらの話を聞く耳を持つてくれる。そこで、「では、明日の三時までにごうします」と解決策を提示するのだ。帰り際も、「かならず予定は守りたいします」と念を押しておく。

このようにきちんと対応すれば、あれほど怒つていた顧客も、逆についてきてくれるようになる。次第に、一癖も二癖もある客と話すのが、楽しく思えるようになってきた。

苦情処理とは洗面器である。相手の気持ちを

「裸の大將」と呼ばれた画家の山下清氏は、放浪の画家でもあつた。芦屋雁之助の名演技で何度か映像化されているから、ご存じの方も多いと思うが、彼は、放浪先で人に会うと、その人を兵隊の位で評価するクセがあつた。

りつばな人だなと思つと、「兵隊の位で言う」と大將かな、「弱者に対して威張つているような人に会うと、「あれば二等兵以下だな」などと、位をつけるわけだ。知恵遅れきみの人だつたから、相手の学歴や地位など関係なく下す彼の評価は的確だつたにちがいない。

人間は複雑なもので、いろいろな要素を持つているから、簡単に評価するのは難しいものである。そのとき、ひとつの基準を設けておくとうまくいくことがある。山下氏のように、兵隊の位で分けるのもひとつの方法と云えよう。

人間に限らず、仕事の上でも複雑な問題があるからみあって混乱してしまつたようなときその問題のひとつつを簡条書きにしておいで、兵隊の位のような基準を設けて分類すると単純化できるものである。大將は白、二等兵以下は黒、中間のものは灰色とおまかに分けてしまつておいた。

昔から、二元論といつて、物事を二に分けて整理する方法があつた。たとえば、陰陽道は、宇宙万物は陰と陽の組み合わせで生成するものであるという考え方であり、今でも、冠婚葬祭の日取りや引越しの方位など、日常生活に少なからぬ影響を与えている。食べ物なども、アルカリ性と酸性に分けて、片方に偏らないように両方をバランスよく食へることが大事だと言われている。

生活面でも、仕事の面でも、たくさん問題が一度に押し寄せてくる場合がある。問題を整理しないまま、抱え込んでいると頭が混乱して

どこから手をつけていいのかわからなくなる。目前に積まれた企画書をあれがいか、これがいかと言つていたのではいつまでたつても決まらぬ。

スタツフの数や能力から見ても、そのあまたある企画の中から、十個に絞らなければならぬ。そのとき、百の企画からいきなり十個にするのは大変である。全部を頭に入れて決めようとする、待てよあんなのもあつた、こんなのもあつた、企画の山の中に手をつこんで引つかき回さなければならぬ。そして、全部いような気がしたり、ひとつもいいのがないような気持ちになつたりすることもある。

そのとき、可、不可、捨てがたいもの三つに分けるわけである。三に分けて整理すれば、不可としたものは、とりあえず机の底にしまつてしまえるから、残りは大分減つてくるだろう。可としたものはやることにして、それがもし

三個あれば、あとの七個は、灰色の中から選ぶ。限りなく黒に近いものと、白に近いもの、半々かなと思つたものに分けて、黒に近いものは、また机の中へ行つてもらふ。白に近いものが三個だつたら、半々の中からまた黒が多いもの、白が多いものにおける。こうした方法で十個にしぼつていけば、問題は単純化できて、よしの十個でいろいろということになるのである。

結婚相手を決める場合などもそうである。漠然と結婚したいと思つているだけでは、出会う人すべてがよく見えたり、どれも自分にはふさわしくないと思つてしまつたりする。そのときは、ささいなことを含めて全部の条件をカードに書いて、二だわるもの、二だわらないもの、どちらでもいゝものに分ける。そうしておけば、ふさわしい人が見つげやすいといふものである。

あるベテランの結婚相談員がよく、「お見合いをしたときに、相手の箸の持ち方や食づ方が

気にならなければ、たいいてい大丈夫」とアトバクスするそうだ。彼に言わせると、食生活の大部分を占めているから、それが気になるようだと結婚生活はうまくいかないと言ふのである。

あるいは、家を買つときなども、この整理の仕方は生きてくる。自分の城を持ちたいというのはサラリーマンの大きな夢のひとつである。一生のうちは何回もあることではないのだから、いきおい慎重にならざるをえない。夢を具体化するためには、この黒、白、灰色の分け方は非常にいいと思ふ。

そうしないと、近郊の沿線にあるすべての候補が、頭の中をぐるぐるかけめぐつて、結局、理想の家のイメージがつかぬまま購入して、後悔することになるだろう。価格も条件の中に入らなければならない以上、あらゆる条件は整つた家などないからである。

昭経俳壇

選者 遠藤 蘆穂

◎震災の奥の細道 春田打三郎

麦笛のふるさと遠くなりけり

震災の春は名のみやこの瓦礫 悟風

○子遍路もおつおつ募金の災害地

避難所へ卒業証書手渡され

被災地に桜前線来て止まり

○カトネーシヨノ明日嫁ぐ娘が水を遣り

なるつなみ原発事故と荒る春

放射能に脅える春の大洗

新季語となるやも春の原発忌

復活祭十字架の仰ぐ朝日かな

浅草に祭り自肅の大震災

公園に子供のゐない子供の日

鯉幟みな青雲の志

葉桜の陰にひっそり忠魂碑

更衣意味なき笑ひの女子学生

涅槃西風津波攫ひし街の跡

大震災沈丁の香を揺り戻し

桃の花今宵舞子の借着して

剣太郎 震災の愚痴は言ふまじ田を返す

○原発の区域余所目に春田打ち

◎街呑みし大津波跡田螺這ふ

みなし子となりぬ被災の果ての春

鯉のぼりがれき層なす街を見て

貧しさに耐へて麦踏む少年期

通学路みなういし桜咲く

○伊豆山も水岩走り霞立ち

陽光に熱海の花も三分咲き

街並みは復興一途や花らんまん

桜散りうつすら紅刷く川面かな

新緑や汽笛一声うねり去り

青空を萌黄の透かす柿若葉

わたる風矢車草の染め分けて

歌麻呂の浮世絵美人春の宵

大なるに石垣崩れて桜咲き

津波来や港は春の海の風の

菜の花に遊ぶ童はどこへやら

◎末ッ娘の嫁ぐむこ殿桜鯛

○花篝読経のだみ声奥の院

麦踏みや般若心経唱へつつ

菜の花や長崎鼻の岬まで

九州の最南端に花の旅

大なるにゆるる大地や花疲れ

みちのくの地震と津波春周章

沈丁の香のすり抜けし人の波

○花筏流るるままに逆らはず

土佐湾の大漁船や初かつお

無気味なり原発基地の寒の明け

人災の原発事故に春の雷

そろそろと菊の根分けや孫のきて

◎田草取り雲井にのびる段畑

雲間より青き立夏の穂高出で

トシネルを抜けて夏空上高地

大津波廃墟のあとに姫女苑

六月二日、午后四時から新宿三栄町にある和

酒和食の振れ込みの食事処「さくら亭」で、高

等学院時代の同期会で通称「プロロ会」が催さ

れた。プロロ会とはこの「昭和経済」でも度々

紹介したが、早稲田高等学院時代のクラスの

名前である。プロロ会には昭和経済会の会員で

皆が衆知の元弁護士で野村證券の顧問、高木新

二郎君がいる。母校の学院ではたまたまこのク

ラスが第二の語学必修のドイツ語、フランス語、

ロシア語の三ヶ国混成のクラスメートで総勢

四十五名程度であった。毎年一回開かれること

になつていて、この日の音頭をとつてくれたの

は榎庭、阿部、川口の三君で、謂うなればプロ

ロ会の幹事を恒常的につとめてくれている。

プロロ会の担任は植田重雄先生で、プロロ会

の名称も植田先生の名案によるものだった。植

田先生は五年前に他界されたが、生徒思いで子

弟付き合ひの熱心な先生だった。私は、クラス

こそ別だったが、二十数年前に仲間と呼ばれて

以来、准会員としていつも参加している。と云

うのも、お互いに知り尽している仲間であり好

人物の連中ばかりなので、付き合ひを楽しみに

している。担任の植田先生は会簿八一の愛弟子

で、八一研究の大家として知られ、すぐれた歌

人であり文学博士であつてもとより名譽教授

で、学問研究に一生を献げた学者であり、片や

教育者でもあつた。短歌同人誌「淵」は先生の

創刊によるもので、今日、不思議な縁で私がそ

れを継承している。面白いことにプロロ会には

歌人は一人もいない。取えて申すなら、私一人

である。歌が詠めなかつたのか、理解できな

つたのか知らないが、とにかく賛同する者がい

なかつたのだらう。この日、私はたまたま刷り

上つた淵の一九一号を贈呈する為に持参した

が、飲んでいくうちにすっかりわすれてしまつ

ていた。川口君が、「植田先生は佐々木君が奈

りにも数多く和歌を詠んで送ってくるのでこ

まつていたよ。相愛わらず詠んでいるのかね」

と云うので、ふと気付いてさる同人誌を差し上

げた次第である。川口君の云うとおりで、小生

の多作は有名の域である。大震災とそのこの原

発事故では震国の情止めがたく、思い出する事

さまざまに三百首ほど詠んで書き綴つている。

みんなにお土産とした短歌同人誌、淵は植田先

生を偲ぶすがになつたのではないだろうか。

淵には植田先生の詠んだ作品を必ず載せて、淵

源を忘れないようにしている。

ところで席上、幹事の桜庭君が、出席者のそ

れぞれが近況を述べてもらいたいと提言した。

プロロ会はそのもエニクな人物が鎮座ま

しまつていて、母校の学院でも一目置かれてい

た存在なので、皆の話しは相愛わらず実に痛快

である。まともに聞いていたらきりが無いが、

途中にちよつかいが多く入り、話が脱線してど

んでもないほうに飛び火して話題が尽きない。

弟付き合ひの熱心な先生だった。私は、クラス

こそ別だったが、二十数年前に仲間と呼ばれて

以来、准会員としていつも参加している。と云

うのも、お互いに知り尽している仲間であり好

人物の連中ばかりなので、付き合ひを楽しみに

している。担任の植田先生は会簿八一の愛弟子

で、八一研究の大家として知られ、すぐれた歌

人であり文学博士であつてもとより名譽教授

で、学問研究に一生を献げた学者であり、片や

教育者でもあつた。短歌同人誌「淵」は先生の

創刊によるもので、今日、不思議な縁で私がそ

れを継承している。面白いことにプロロ会には

歌人は一人もいない。取えて申すなら、私一人

である。歌が詠めなかつたのか、理解できな

つたのか知らないが、とにかく賛同する者がい

なかつたのだらう。この日、私はたまたま刷り

上つた淵の一九一号を贈呈する為に持参した

が、飲んでいくうちにすっかりわすれてしまつ

ていた。川口君が、「植田先生は佐々木君が奈

り出すと、春を告げる遅いみちのくの香りを女

房が嗅いで、しきりに喜んでいた。翌日の朝、

家に持ち帰つて早速、新鮮な山うど等の三品

を納めた袋から新聞紙にくるまつた山菜を取

り出すと、春を告げる遅いみちのくの香りを女

房が嗅いで、しきりに喜んでいた。翌日の朝、

若菜を味噌汁にいらて食したが、なんとも云えない東北の香りを味わえて珍味に舌づつましないのである。夕方、娘の明子夫婦がやってきたので、天ぷらにして美味しく頂いた。桜庭君は定年退職後 中国、ベトナム、カンボジア等の国々を訪ね、しかも奥地に分け入って原住民と生活を共にして行くという特異な技を持つていて、破天荒とも言つゞき海外旅ならではものである。凡人には計り知れない彼の人間性に根ざしたものであり、依つて立つ哲学があつてのことで、信念堅持の行動派である。現地から写真入りで刻明な報告をインターネットで知らせてきてくれる。素晴らしい才能をもつた実践派である。正義感の強い、ヒューマニズムの旺盛な友人のひとりである。

事は左様な次第で、ひとりひとりが個性豊かで味わい深く、「死んだつもりで生きてゆけば、放射能なんて平気なものだ」と云わんばかりに出された食べ物によく食うし、つがれた飲み物

賛成していた鳩山が菅と会談、重要法案の国会での承認を条件に引退すると云う約束を取り付けて、民主党が一致団結して反対票を投じることで不信任案は大差で否決された。菅は信認を得たとして原発事故の事態収束をはかるまで、政権を担当し責務を果たすと表明して、今度には辞任の時期をめぐつて鳩山と菅との間で云つた、云わぬの口論となり、騙した、騙してないの喧嘩になつた。まるで田舎芝居の茶番劇である。政治家が正直であるはずがない。本職は別名、税金収奪人である。しかも民意をさち抜きの権力闘争に明け暮れて、所謂、国会はサル群れで鳥合の衆である。本気で構えて見ていたら、馬鹿を見るのは国民である。ましてや今日、大震災と原発事故で苦悩する被災地の人たちは、復興支援の実行予算が遅ればかりをみて落胆するのみで、毎日の切羽詰つた生活を見るにつけ、まことに気の毒の極みである。吉田茂曰く、猿につける葉はない。六月三日

札幌講演会

日時

九月八日(木)

講師

一橋大学名誉教授
中谷 巖 氏

演題

資本主義経済の破綻
日本の活路について

会場

札幌グランドホテル

はよく飲むし、催促するし、健啖ぶりは旺盛である。今日出て来た連中は、多少の治療の経歴があるものの、当分死にそうもない。少年時代から憎まれっ子世に憚るではないが、豪放磊落の類いである。生い立ちも逆境に強く、度胸千両で生きてゆく一匹狼が多いような気がする。踏まれても蹴られても、逆境を切つて返す楽天家だ。

六時にお開きになつたが、雨の中、帰る方角が同じの高木新二郎君とタクシーに乗つたが、途中で同じ方角の山口信昭君を置き忘れてきてしまった。

六月二日、自民、公明などから提出された菅直人内閣不信任案が衆議院で否決された。民主党内の内紛については何かと喧しくきており、前日までに民主党内の小沢、鳩山の反政府グループが八十名からの賛成票を投ずることが俄かに現実性を帯びてきた。二日前、それまで

表紙絵のことは

ローマ・旧アツピア街道

関根常雄

ローマ、アツピア旧街道を描いて見ました。今回は、私のプライベートな話を少し話して見たいと思います。

一九七四年当時の服飾界は、ヨーロッパに追いつけ追い越せの時代でした。洋服業界は、モデルの最高の盛り上がりを見せておりました。そこでK・カネボウが「服飾界のグラウンダリ」、一九七四年カネボウ日本賞コンクールを発表し、一般公募を行いました。当時は新人デザイナーの登竜門として、国内内外ファッション界の注目を集め、充実した内容規模で広く各方面から注目されて居りました。その広がりながら、五回目を数えるに至りま

として五拾万円を頂きました。当時は忙しすぎた受賞の喜びを感じる余も無く、今になって過ぎた日を楽しんでおります。臆面もなく書きつらねましたが、御答赦下さい。さてその後洋装社からの案内で、ヨーロッパへの研修を勧められ、夢と希望に胸ふくらませて渡欧に出発しました。当時ローマに、アンジエロ・リトリコと云うメンズのデザイナーがおりました。彼はアメリカ元大統領のアイゼン・ハワーや、ケネディなどの服作りにたづさわりました。この閑静なたたすまいに建つ高級アパートの一階に有りました。お会いするや否や、早速三人のモデルが着替えて、フロアショーを見せてくれました。その素晴らしい作品は生き生きと表現され、感嘆するばかりでした。

したが、私も若い年とは云いませんが、戦後昭和二十二年に洋服業界に入り、一九七四年のこの時期ファッションに目覚め、明日へのデザイナーを夢見て応募致しました。国内、海外あわせて二七一点の応募作品が寄せられました。

この多数の作品の中から、第一次審査は自由なデザイン画A B部門の審査によって、二百十四点が審査を通りました。第二次審査では春夏ものの二点を追加して合計三つのデザイン画により、最終審査作品が選考されました。そしてA B部門あわせて六十一点が決定されました。

最終審査は第二次審査を通じた方々が、モデルに合わせた作品をカネボウの生地で作りました。厳正な審査を経てA部門八点、B部門十六点の計二十四点が入賞となりました。結果、大賞は森田みどりさん(文化服装学院)が受賞して、副賞百万円を貰いました。私もお蔭様で、金賞を受賞することが出来ました、賞金

この感動も覚めやらぬうちに、私は表紙絵に描いたアツピア旧街道へと案内をして頂きました。アツピア街道は紀元前三百二十年、ローマとカプアを連結する為に建設され当時、諸州へ赴く執行官の最も重要な役割を果たしていたといわれています。「全ての道はローマに通じる」と言われていますが、鎌倉街道を彷彿とさせます。

この時代の法律は死者を都内に埋めることを禁じていましたので、ローマ人の死者の墓を郊外の大道に沿って作られたそうです。自然の美観の荘厳さを増すこの治道には、墳墓記念物が建てられております。やがてキリスト教信仰者は、その死を埋める墓洞(カタコンベ)を掘つたので、街道の所々に昔の様子を物語る城壁や敷石が保存されており、治道の両側に大きな松の並木があります。表紙絵は、この古代廃虚の天然の美しい光景を描いたものです。

月刊誌掲載者・昭和経済論文(敬称略)

- 大内義一 早稻田大学名誉教授(巻頭随筆)
- 荻原伯永 (株)日本経済社 日経専務
- 牛場信彦 外務省顧問
- 広瀬嘉夫 NHK解説委員
- 安井謙 参議院議長
- 加藤寛 慶應義塾大学教授
- 豊原兼一 NHK解説委員
- 斉藤栄三郎 参議院議員
- 岡村和夫 NHK解説委員
- 石井義昌 榊桂川精煉製作所 社長
- 糸川英夫 組織工学研究所長
- 宮本四郎 通産省産業政策局長
- 豊田雅孝 (社)日本中小企業団体連盟
- 安井謙 前参議院議長 自民党顧問
- 大来佐武郎 対外経済関係 政府代表
- 藤原弘達 政治評論家

- 堺谷太一 作家
- 原田正二 大正大学教授
- 豊田雅孝 当会顧問
- 安井謙 当会顧問
- 窪田真也 第一勧業銀行産業調査部長
- 宝生あやみ 劇団手織座
- 山本幸助 通産省産業政策局長
- 産業資産課長
- 山田勝久 通産省商政策局国際経済部長
- 岡松壮三 通産省電子政策課長
- 村山祐太郎 鈴木金屬工業(株)会長
- 当会理事
- 堀江忠男 早稲田大学名誉教授
- 寺島祥五郎 画家
- 安井謙 当会顧問 自民党最高顧問
- 参議院議員
- 元荒亮新聞政治部長
- 田山晃
- 鈴木三子郎 元税務大学教授 税理士
- 大蔵大臣
- 竹下登



作品 関根常雄

平成二十三年 五月二十七日印刷
平成二十三年 六月一日発行
第三号 第六十二卷

昭和 経済 第三号

編集人 佐々木 誠吾
兼発行人 日本印刷株式会社

印刷所 日本印刷株式会社
発行所 昭和経済会

事務局 千代田区 東京都中央区八重洲二丁目二番

TEL (六八二〇) 六〇〇〇番
FAX (三二七二) 三〇四番
e-mail: info@showa-ecorp.jp
http://www.showa-ecorp.jp/

月尾嘉男 東京大学教授
 高橋伸彰 立命館大学教授
 柳佳之 東京大学 医科学研究所
 吉田和男 京都大学教授
 茅陽一 慶應義塾大学院教授
 佐和隆光 京都大学教授
 金大中 韓国大統領
 中谷巖 一橋大学教授
 高橋伸彰 立命館大学教授
 清水啓典 一橋大学教授
 給村興太郎 一橋大学経済研究所教授
 福川伸次 電通総研研究所長
 橋本大二郎 高知県知事
 奥野正寛 東京大学教授
 樋口廣太郎 アサヒビル会長
 島田晴雄 慶應義塾大学教授
 小宮隆太郎 東京大学名誉教授
 北岡伸一 東京大学教授
 石原慎太郎 東京都知事
 ラシゴ岩本 ラシゴ・インタナショナル代表
 ジェームス・D・ウォルフエルソン 世界銀行総裁
 シモン・ペレス イスラエル外相
 山口光恒 慶應義塾大学教授
 岡崎久彦 元駐米 公使 駐タイ公使
 ポール・サミュエルソン 経済学者
 大野健一 政策研究大学院大学教授
 佐々木和男 サウヂイ石油化学㈱社長
 ドナルド・ラムゼン エルド 米国防長官
 イアン・ジョンソン 世界銀行副総裁
 竹森俊平 慶應義塾大学教授
 山本清治 経済評論家
 朱建榮 東洋大学
 アレクサンドル・パノフ 駐ロシア大使

福田勉夫 衆議院議員
 斉藤榮三郎 商学博士 法学博士 文学博士
 河野洋平 衆議院議員
 前川春雄 前 日本銀行総裁
 黒田眞 通商産業省 通商政策局長
 堀江忠男 大月短期大学学長
 水谷研治 東海銀行常務取締役 調査部長
 鈴木俊一 東京都知事
 田村次朗 米国企業公共政策研究所長
 目良浩一 東京国際大学教授
 行天豊雄 東京銀行会長
 吉川洋 東京大学教授
 竹中平蔵 慶應義塾大学教授
 加藤寛 慶應義塾大学教授
 原田和明 三和総合研究所 理事長
 嶋武彦 東京大学教授
 大山晃人 東京国際大学教授
 元 NHK解説委員
 元 NHK解説委員
 元 NHK解説委員
 元首相
 塩野谷祐一 一橋大学名誉教授
 宮沢喜一 元首相
 山田伸二 NHK解説委員
 石井明 東京大学教授
 加藤寛 千葉商科大学長
 政府税制調査会会長
 朝日新聞
 伊藤裕章
 井浦康之 企業コンサルタント
 水谷研治 東海総合研究所 理事長
 パツラフ・ハベル チェコ大統領
 平野憲一郎 日本経済新聞ニッポン局長
 吉田和男 京都大学教授
 石川忠雄 慶應義塾大学名誉教授 学長
 中曾根康弘 元首相
 中山泰平 日本興業銀行 特別顧問
 北岡伸一 立教大学教授
 島田晴雄 慶應義塾大学教授
 吉田和男 京都大学教授
 塩野谷祐一 一橋大学名誉教授
 宮沢喜一 元首相
 山田伸二 NHK解説委員
 石井明 東京大学教授
 加藤寛 千葉商科大学長
 政府税制調査会会長
 朝日新聞
 伊藤裕章
 元 NHK解説委員
 元 NHK解説委員
 元 NHK解説委員
 元首相
 塩野谷祐一 一橋大学名誉教授
 宮沢喜一 元首相
 山田伸二 NHK解説委員
 石井明 東京大学教授
 加藤寛 千葉商科大学長
 政府税制調査会会長
 朝日新聞
 伊藤裕章

林光夫 ナショナル日系博物館へリテリシセ

シタノ理事(前 理事長)

日系ブレバース基金理事

ハワード・ロベーカー 駐日米大使

山本清治 経済評論家

ステインズン・ゴアソール 駐日英国大使

山口義二 立教大学経済学部教授

公文俊平 多摩大学情報社会学研究所長

伊藤元重 東京大学教授

アルビン&ハインライ・トフラー

米未来社会学者

中曽根康弘 元 首相

ハワード・ロベーカー 前駐日米大使

竹森俊平 慶應義塾大学教授

岡部直明 日本経済新聞 論説主幹

加藤寛 千葉商科大学学長

山口光恒 帝京大学教授

斉藤惇 産業再生機構 前 社長

渡辺智之 一橋大学教授

お茶の水女子大学教授(哲学)

山崎正和 中央教育審議会 会長

前 ナザレノ神学大学学長

井深記念塾ユナイ

経済財政担当相

ニコリヨク大学名誉教授

東京大学客員教授

慶應義塾大学教授

早稲田大学教授

早稲田大学教授

若田部昌澄

東京大学教授

大西隆 東京大学教授

浜田純一 東京大学総長

中西寛 京都大学教授

高木新一郎 前 産業再生機構委員長

野村證券顧問

京都大学准大学教授

ハバード大学名誉教授

林良造 東京大学教授

入江昭

諸富徹

高木新一郎

中西寛

大西隆

山内昌之

若田部昌澄

平野雅章

曾根泰教

大田弘子

佐藤隆三

佐藤隆三

福江等

山崎正和

土屋堅二

クリスティアナ・アメージャン

一橋大学教授

伊藤元重

今井賢一

スタンフォード大学

名誉シニアフェロー

東京大学 元学長

池尾和人 慶應義塾大学教授

細田衛士 慶應義塾大学教授

林良嗣 名古屋大学教授

土居丈朗 慶應義塾大学教授

脇坂明 学習院大学教授

関満博 一橋大学教授

古谷浩二 朝日新聞記者

御厨貴 東京大学教授

田中明彦 東京大学教授

西垣通 東京大学大学院情報学環教授

山内昌之 東京大学教授

高安秀樹 明治大学客員教授

浜田宏一 エール大学教授

昭和五十二年、平成二十二年十二月

当会・講演会 講師(敬称略)

作家

栗栖弘臣 統合療養長

加藤寛 慶應義塾大学教授

糸川広洋 組織工学研究所 所長

大来佐武郎 対外経済担当大臣

斉藤栄三郎 科学技術省長官

柿沢弘治 衆議院議員

浜田幸一 衆議院議員

木元教子 評論家

岡松壮三郎 通産省電子政策課長

稲川泰弘

通産省政策局

商務サービス産業室長

藤原弘達

政治評論家

山本幸助

通産省産業政策局長

岡松壮三郎

通産省生活産業局長

山田勝之

通産省国際政治部長

鈴木幸夫

テレビ東京解説委員長

山室英男

NHK解説委員長

通産省宇宙産業室長

河野洋平

衆議院議員

寺島祥五郎

当会理事

長富祐一郎

大蔵省官房審議官

中沢忠義

中小企業庁長官

吉國隆

農林水産省大臣官房企画室長

天谷直弘

(財)産業研究所顧問

元 通産省審議官

鈴木俊一

東京都知事

黒田眞

通商産業省 通商政策局長

上野明

野村総合研究所 主任研究員

前川春雄

前日本銀行総裁

大山晃人

NHK解説委員

野坂昭如

作家

水野哲

通産省産業政策局

産業政策局総務課長

堀江忠男

早稲田大学名誉教授

梅沢節男

国税庁長官

田川誠一

進歩党代表 衆議院議員

森 亘

東京大学総長

藤井康男

龍角散社長

水城武彦

NHK解説委員

大山晃人

NHK解説委員

斉藤栄三郎

国務大臣 科学技術庁長官

内田 満

早稲田大学教授

岡松壮三郎

通商産業省生活産業局長

水谷研治

東海銀行常務取締役調査部長

有馬朝人

東京大学総長

松本和男

経済評論家

大山晃人

NHK解説委員

鈴木淑夫

野村総合研究所副理事長

元 日本銀行理事

松永信雄

外務省顧問 前駐米大使

霍見芳浩

ニューヨーク市立大学大学院教

村松暎

慶應義塾大学名誉教授

杏林大学教授

飯田健一

NHK解説委員

L・A・チジョーフ 駐日ロシア連邦大使

大山晃人

元NHK解説委員

東京国際大学教授

小浜維人

NHK解説委員長

メナイエータ(人間接着美)

(財)日本証券経済研究所

主任研究員

原田和明

三和総合研究所

和田俊

朝日新聞編集委員

テレビ朝日ニュース・ステーション

大山晃人

元 NHK解説委員

早稲田大学名誉教授

木村時夫

井浦康之

井浦コミュニケーションセンター 当会理事

水谷研治

東海総合研究所 理事長

目良浩一

東京国際大学教授

山下豊次郎

筑波大学 臨床医学系内科教授

斉藤精一郎

筑波大学付属病院副院長

岩國哲人

立教大学教授

前出雲市長

浅井隆

経済ジャーナリスト

岩田規久男

上智大学教授

久保亘

前 大蔵大臣

大山晃人

東京国際大学教授

山田伸二

NHK解説委員

吉田春樹

和光経済研究所理事長

副島隆彦

経済評論家

ポータルメディア・ベアリング投資顧問

日本株運用ヘッジ兼ストラジスト

早坂茂三

田中角栄 元秘書

山田伸二

NHK解説委員

